

柳營日記記

寛文三 癸卯年

七月

朔日

時服二十 御暇
御馬一疋

松平伯耆守

是初而被下之

織田豊前守

時服四 御暇

鳥居主膳正

時服六 御暇

京極右近

銀馬代 參勤

岩城百助

時服三 初見

永見新右衛門

銀馬代 宇治掃

原田利齋

右御目見

奥御奥書院

嶋田淡路守

室賀下總守

右両典より御即位御使ニ上洛掃御目見

山口出雲守

大久保和泉守

右日光 御成ニ付甲府館林へ罷越掃御同斷

箱肴 湯治掃

銀馬代 參府

晒二十疋 金馬代

是^新先頃本寺末寺出入候處專修寺所存之通被

候旨御礼也依之上使不被遣

束巻 輪番代

束巻

八幡 豐藏坊

高野山學侶 成福院

高野山學侶 寶智院

高野山學侶 蓮花院

高野山學侶 鈴木外記

高野山學侶 長岡大藏

高野山學侶 国府谷半左衛門

生越

善打

山本坊

算哲

知哲

岩井与左衛門

大津野人

坂本弥七

土御門

福壽丸使者

御暇銀五枚

御暇銀五枚

無事

西尾藤兵衛佐々木又兵衛大坂御目付代被

仰付

同日

女院御所御使參府之砌當地逗留中旅宿無之付於鉄炮

町之會所

宅地被下之

女院・七夕御祝儀卷致匂袋雅樂頭披露

同日

式日 出座 美濃守

同日

無別条

奥 幸若伊右衛門子供兩人へ五人扶持ッ被下之

同日

紅葉山火之番

土屋民部少輔

代り 松平備前守

自是

初メ如例式御礼

今日出仕無之面々

紀伊重相

七日

巳刻黒書院 出御

御刀 大久保出羽守

甲府相公

館林相公

御老人宛出座御礼次^二白書院

渡御

尾張黃門

紀伊相公

徳川右兵衛督

松平讃岐守

井伊玄蕃頭

保科筑前守

松平左兵衛督

松平越後守

松平加賀守

松平新太郎

松平左京大夫

松平出羽守

松平安藝守

森 内記

松平刑部太輔

松平播磨守

松平但馬守

松平阿波守

藤堂和泉守

伊達大膳大夫

京極近江守

毛利右京

松平下野守

松平和泉守

紀伊重相

次^二大廣間

次^二四品

藤堂大学頭
松平式部少輔
松平大膳大夫
但大学頭大膳大夫日光被參詣也

八日

時服十
御暇
被下物無之初被下也
内藤豊前守
伊丹大隅守

紀伊宰相殿御暇ニ付 上使美濃守
御納戸衆三浦小次郎去頃於赤坂無作法子細有之ニ付父
小左衛門へ御預
奧 紀伊宰相殿御暇 上使美濃守

二九跡目之者八人火番へ入火番五人御門番へ加之
九日
御鷹二居
御馬老足
紀伊參議
城於御座間 御目見
水野對馬守
伊達源左衛門
菅沼半兵衛
小出権大夫
志賀弥惣左衛門
在所江御暇
同
時服三
羽織
時服四
御馬一疋
銀百枚時服十
銀百枚時服十
羽織

是昨日上使之ニ付而為御禮登
城於御座間 御目見
相公家來
水野對馬守
伊達源左衛門
菅沼半兵衛
小出権大夫
志賀弥惣左衛門
在所江御暇
同
時服三
羽織
時服四
御馬一疋
銀百枚時服十
銀百枚時服十
羽織

一 孟蘭盆ニ付日光江 御名代
右被 仰付之
水相公帰国為御禮綿百把御樽有被獻之
奉書紙三十束 帰国御礼 松平越前守
銀馬代 自御御礼 松平主馬
久保田又右衛門伊藤兵左衛門関長右衛門岡田半兵衛
福井源左衛門小池甚兵衛杉浦五郎左衛門右七人奥火之
番被 仰付之

右被 仰付之
水相公帰国為御禮綿百把御樽有被獻之
奉書紙三十束 帰国御礼 松平越前守
銀馬代 自御御礼 松平主馬
久保田又右衛門伊藤兵左衛門関長右衛門岡田半兵衛
福井源左衛門小池甚兵衛杉浦五郎左衛門右七人奥火之
番被 仰付之

右被 仰付之
水相公帰国為御禮綿百把御樽有被獻之
奉書紙三十束 帰国御礼 松平越前守
銀馬代 自御御礼 松平主馬
久保田又右衛門伊藤兵左衛門関長右衛門岡田半兵衛
福井源左衛門小池甚兵衛杉浦五郎左衛門右七人奥火之
番被 仰付之

十日

井上筑後守
酒井大学頭
横山内記
大久保頼母

右被 仰付
孟蘭盆ニ付日光江 御名代
大久保山城守

右被 仰付之
御暇 銀五十枚
上使堀田備中守
專修寺

右同宿_井家來五人へ時ふく式ツ被下之
右同宿_井家來五人へ時ふく式ツ被下之
十一日
都合式万三千石
土井兵庫頭

兵庫頭律義ニ御奉公仕ニ付
右三千石御加増被下西尾城主被 仰付之
本高式万石
増山兵部
常州下館城主被 仰付
下館之城先年焼失ニ付為作事料金五千兩被下之
兵部幼少ニ知行手速被 思召候幸下館空城且那須へ程近
ニ付替被下
水相公・初鮭被獻之以宿次 禁裏へ御進獻之
水宰相使者
御暇時ふく五 松平教馬
三 松平主馬

十二日
式日出座 豊後守
上使内藤式部少輔
兩相公
紀伊
尾張黄門
右御鷹之雲雀五十ツ以上 上使被遣之
生見玉之御祝儀被獻之
金式枚
二種一衛ツツ
稲葉丹後守小田原へ御暇被下之
一小十人小里彦五郎千彦五郎家督小普請

右御鷹之雲雀五十ツ以上 上使被遣之
生見玉之御祝儀被獻之
金式枚
二種一衛ツツ
稲葉丹後守小田原へ御暇被下之
一小十人小里彦五郎千彦五郎家督小普請

右御鷹之雲雀五十ツ以上 上使被遣之
生見玉之御祝儀被獻之
金式枚
二種一衛ツツ
稲葉丹後守小田原へ御暇被下之
一小十人小里彦五郎千彦五郎家督小普請

右御鷹之雲雀五十ツ以上 上使被遣之
生見玉之御祝儀被獻之
金式枚
二種一衛ツツ
稲葉丹後守小田原へ御暇被下之
一小十人小里彦五郎千彦五郎家督小普請

十三日

御女中方へ御鷹之雲雀五十ツ 奥方・被遣候
天樹院御方 高田御方 千代姫君 本理院御方へ
如例年上野へ中西圖書組共増上寺へ牧野傳藏組共被遣之
如例年老中へ御帷子被下之於御前拜領
縮式帷子三
雅楽頭

同式ツツ
豊後守
美濃守

奥水戸殿・二番鮭献上之
十四日
増上寺御名代
阿部豊後守
稲葉美濃守

水戸殿・重鮭二尺被獻之
法皇 本院御所へ初鮭御進獻之
十五日
増上寺江御名代阿部豊後守
方丈江
潮山古岩江
右被下之
上野御名代稲葉美濃守
日光門跡江
毘沙堂門跡江
凌雲院権僧正
担那院権僧正
戒善院
住心院
圓光院
東漸院

右被下之
上野御名代稲葉美濃守
日光門跡江
毘沙堂門跡江
凌雲院権僧正
担那院権僧正
戒善院
住心院
圓光院
東漸院

右被下之
上野御名代稲葉美濃守
日光門跡江
毘沙堂門跡江
凌雲院権僧正
担那院権僧正
戒善院
住心院
圓光院
東漸院

右被下之
上野御名代稲葉美濃守
日光門跡江
毘沙堂門跡江
凌雲院権僧正
担那院権僧正
戒善院
住心院
圓光院
東漸院

右被下之
上野御名代稲葉美濃守
日光門跡江
毘沙堂門跡江
凌雲院権僧正
担那院権僧正
戒善院
住心院
圓光院
東漸院

右被下之
上野御名代稲葉美濃守
日光門跡江
毘沙堂門跡江
凌雲院権僧正
担那院権僧正
戒善院
住心院
圓光院
東漸院

十六日
御暇銀五枚
女院御所御使
長坂新右衛門
森川下総守

於 御座之間 御目見則禁中院中御返事申上

十七日

紅葉山御宮へ 御名代 稲葉美濃守

奥一七半過御乘馬

十八日

病死

小笠原老岐守

奥 成瀬一岳遺物三原正家十五枚献上野

一駿河為御目付渡辺筑後守被 仰付之

一三州西尾城為引渡内藤新五郎森勘右衛門被 仰付之

一上州下館城為引渡久保平左衛門村瀬伊左衛門被 仰付之

一去十二日坂井八郎兵衛御預之水主一人壺巖嶋相通刻其

所之町人と令口論被打擲付^三逐電仍相残水主合一味翌

早天相越打返之訖依之御穿鑿之处理不尽之儀有之付^三

水主三十人之内十式人追放被 仰付之

十九日

御刀 松平紀伊守

御役替有之

新御番頭

天野三郎兵衛跡

横田甚右衛門

御小姓組与頭

横田甚右衛門跡

右兩人御直^二被 仰付

水戸^江上使

松平監物

右可被遣候

西丸^江被為 成 御供如例之

御鷹之雲雀三十^ツ上使御使番

松平越後守

松平加賀守

松平新太郎

松平相模守

松平大隅守

松平讃岐守

松平出羽守

松平安藝守

藤堂大学頭

松平大膳大夫

森 内記

松平阿波守

井伊玄蕃頭

上使御書院番頭板倉市正

尾張右兵衛督殿

保科肥後守

奥 西丸御馬乘 御番乘馬 上覽

同五十

廿日

紅葉山 御仏殿被為 成御供如例

御刀 松平因幡守 御香 松平紀伊守

尾黄門陪拜 日門御出迎

御先へ雅楽頭 豊後守 美濃守

供奉 久世大和守 土屋但馬守 板倉筑後守 森川下總守

大猷院様十三回御忌^二付 御赦之面々名前別紙明日之処^二多有之

家譜 ○林平左衛門 父左馬之助改易之後平左衛門美濃国^二 罷在候處今度新平被 召出

廿一日

今度

大猷院殿十三回忌^二付日光門跡御訴訟故赦免之輩被 召

出之

細井喜三郎

山田権九郎

井上半十郎

稲留喜三郎

瀧川三九郎

久野左門

右御預ヶ 御免被 召出之

只今迄 松平下總守預ヶ

御預 御免

被 召出之

同 本多下野守預ヶ

同 小野傳三郎

同 次郎兵衛

同 加藤甚助

同 甚兵衛

同 權之助

同 六之助

岡田淡路守

可被 召出之

松平淡路守御預ヶ

岡田藤之助

倉橋三五郎

赤原勘兵衛

平澤五郎七

松田源七

同 断 小長谷傳兵衛

同 断 林 平左衛門

御臺所 内山十郎兵衛

御敷 屋方 善 佐

岩松万次郎

只今迄取来候廿石相添地方百石^二被成候

御預 御免

安藤権佐

筒井甚十郎

寛 五郎右衛門

安藤源五左衛門

酒井左衛門尉へ

内藤豊前守御預

鈴木権右衛門

松平大和守^上

土岐宇右衛門

浦本木半理^上

右原喜九郎

戸沢能登守之 奥石巻彦六郎

酒井大学頭^上

留 久右衛門

丹羽左京大夫^上

坂田十左衛門

牧野飛騨守^上

鈴木九郎左衛門

同 八右衛門

同 中山勘三郎

本郷庄三郎^上

奥津猪之助

兄十郎右衛門^上御預ヶ

小笠原七右衛門

浅野内匠守^上

山三郎子

水谷市之丞

二男
水谷熊之助
三男
水谷長太郎
織田内記
高崎十郎右衛門
新庄隠岐守
荒木小兵衛
仙石越前守
中根五郎八
九鬼長門守
九鬼内記
淺野内匠頭
將監子

大久保長次郎
太田原山城守御預
太田原作兵衛
西郷若狭守
権右衛門子
山角三郎右衛門
同人子
同 一郎左衛門
同人子
同 三左衛門
本多飛騨守
矢崎五郎八
八木但馬守
八木宮内
鈴木長左衛門
鈴木十兵衛

松平日向守御預
松平因幡守
内山茂大夫
一伯家来
本多飛騨守
一伯家来
真砂大吉
大君子
同 長介
六郷伊賀守
一伯家来
小山田傳四郎
脇坂中務太輔
喜連川家来
柴田七郎右衛門
佐喜連川御所
同人
同 六右衛門
同部内膳正
二階堂主殿
同部内膳正
十色左衛門
同人
一色人之丞
青山大膳亮
相木与右衛門
堀丹波守
柴田弥左衛門

同人
家来
同 三左衛門
川へ參間敷旨
右八人喜連川家来也今度御預御免何方正も罷在候喜連

森内記
生駒左門
同人
子共六人
井伊部頭
掃部孫
福島助六
文右衛門子
大久保庄之助
津輕越中守御預
興津河内守家来
森 七兵衛
相良清兵衛家来
大童九郎右衛門
乙益勘右衛門
松平式部大輔御預
中山勘三郎

高野山
前室院
高祖院
同
高祖院
前室院
前高祖院
高野学侶方
前室院
前高祖院

國御免
御預御免又中山勘ケ由知行所へ差置旨

鳴御免
佐渡流人
長谷川長三郎
大橋流人
長延寺
同人子三人
佐渡流人
柏木清吉
同人子三人
同部同屋
内藤九郎兵衛

籠舎御免
九郎兵衛子悪事仕欠落其科よりて籠舎之処御免右之
科人、亦可尋出旨
相良津久井村
名主
八右衛門

國御免
所追捕御免
名主
八右衛門

自東叡山被差上敷帳之外御赦免
立花飛騨守御預
最上源五郎家来
松根備前
御預
同人子共
松平市正御預
駿河士
安藤對馬守御預
白田八郎兵衛
土方河内守御預
駿河殿家来
三井庄左衛門
戸田伊賀守御預
小川六左衛門
土屋民部少輔御預
金丸權左衛門

御小姓組与頭土岐市右衛門へ組中引渡有之
證人替有之
銀馬代 參勤
時ふく式御暇
五輪道路守家来
松尾大之助
家来
木場長三郎

廿一日
御小姓組与頭土岐市右衛門へ組中引渡有之
證人替有之
銀馬代 參勤
時ふく式御暇
五輪道路守家来
松尾大之助
家来
木場長三郎

廿二日
無別条之
一松平式部大輔氣色為尋 上使石川能登守雲雀三十被下之
一紀伊亞相御簾中へ雲雀三十被遣之御使番持參
一甲宰相御簾中紀伊相公御簾中へ雲雀三十被遣之
一甲宰相羽生領之鷹場狹付 府中筋添被遣之
奥 保生大夫勅進能付寄合無之

廿三日
甲府相公 江
夏鷹場拝領之武州之内府中・三里半五里余為御札
登營
御鷹之雲雀三十ッ上使御使番大名被下之
松平左京大夫
松平但馬守
松平刑部大輔
松平播磨守
松平播磨守
立花飛騨守

御鷹之雲雀三十ッ上使御使番大名被下之
松平左京大夫
松平但馬守
松平刑部大輔
松平播磨守
松平播磨守
立花飛騨守

御鷹之雲雀三十ッ上使御使番大名被下之
松平左京大夫
松平但馬守
松平刑部大輔
松平播磨守
松平播磨守
立花飛騨守

御鷹之雲雀三十ッ上使御使番大名被下之
松平左京大夫
松平但馬守
松平刑部大輔
松平播磨守
松平播磨守
立花飛騨守

御鷹之雲雀三十ッ上使御使番大名被下之
松平左京大夫
松平但馬守
松平刑部大輔
松平播磨守
松平播磨守
立花飛騨守

是男女共計御預御免
男子女子共御預御免何方も可差置候因幡守其他御預
同預御免心次第面々

佐竹右京大夫
京極近江守
有馬松千代
鍋嶋左衛門
毛利右京
南部山城守
松平兵部少輔

本多下野守初鶴新庄之 禁裏へ御進献宿次
松平下総守へ 上使雲雀式十被下之

廿四日

紅葉山 御仏殿被為 成候
御先達 雅楽頭 御刀 松平因幡守 御沓 安部伊勢守
尾黄門陪拜

豫參 雅楽頭 井伊玄蕃頭 阿部豊後守 稲葉美濃守
供奉 久世大和守 土屋但馬守 板倉筑後守 森川下総守
新院御所御召仕之女中へ新規被下之
百式十石 上新大納言 上郎婦
" 權すけ
" やまの小路 内侍殿
百石 右京
" 少将

六十石 たんこ
" さぬき
" さかみ 御乳之人
式百石 大ゆふ 御さし
六十石 ては
右之通被下旨以飛脚被 仰遣之

廿五日
於鉄炮洲保生大夫勅進能仕付見物可仕之旨老中老人ツツ
可有見物之旨被 仰出之
新番頭横田甚右衛門へ組中引渡有之

廿六日

黑田市正死去 駿府御城番松平新吉死去
廿七日也
奥 雅楽頭上意・勅進能見物罷越

廿七日
御鷹之雲雀大名江以 上使御使番被下之
三十ッ

宗 對馬守
小笠原信濃守
松平日向守
稲垣信濃守
伊達大膳大夫
岡部内膳正
本多下総守
小笠原土佐守

式十ッ
松平石見守
内藤帯刀
本多越前守
内藤右近大夫
松平和泉守
牧野飛騨守
石川主殿頭
松平佐渡守
本多下野守
本多中務少輔
諏訪因幡守
酒井大学頭

水戸相公・重 蛙被献之 新院御所へ御進覽
甲府相公・先日被遣之於鷹場鷹狩之雲雀三十被献之
從駿府次飛脚去廿五日松平新平病死之由注進之
小笠原山城守召之父老岐守病躰御尋雲雀二十被下之

廿八日

参勤之御礼
金馬代
榊原刑部太輔

銀馬代
箱肴 参府
" 同
一束一本
時服七 御暇
時服二 御暇
羽織二
金十枚
金十枚
常州下館城引渡

松平肥前守
細井左次右衛門
若林六郎左衛門
仍春法眼
酒井日向守
五嶋民部
黒川与兵衛
長崎役所・御暇

常州下館城引渡
久保平左衛門
村瀬伊左衛門
右四人被 仰付西尾へ土井兵庫頭下館へ増山弾正少弼也
束卷 後住御礼 天徳寺
束本 参上 連歌師 仍春
西尾引渡 御暇 仍春

御目付 御暇
金三枚ッ
初見
内藤新五郎
森 勘右衛門
松鹿内匠惣領
長兵衛

廿九日
西丸被為 成御供如何之
奥 一御小姓組御書院番乗馬 上覽
一豊後守勅進能見物上意 依也

晦日
無事
上意より美濃守勅進能見物

柳營日記記

寛文三 癸卯年

八月

朔日

巳刻黒書院 出御御白帷子 御長袴両相公御太刀目録

酒井雅楽頭披露之次大久保出羽守

白書院

渡御

尾張黃門

徳川右兵衛督

至太刀目録雅楽頭披露次二

紀伊巫相

同 相公酒氣付

水戸相公

在國二付以名代太刀目録上ル雅楽頭披露之使者 御目見

松平式部太輔

保科肥後守

右老入ツツ太刀目録持参而御礼

大廣間江

出御之節大廊下二老中高家衆詰衆奏者番同嫡子諸番頭諸

物頭並三千石以上之面々太刀目録前置一同 御目見

大廣間

中段二着座

松平越後守

松平加賀守

松平新太郎

松平大隅守

松平相模守

松平左京大夫

松平出羽守

松平安藝守

松平大膳大夫

藤堂大学頭

森 内記

松平刑部太輔

松平播磨守

松平阿波守

宗 對馬守

右老入ツツ太刀目録持参而各下段二御礼

藤堂和泉守

伊達大膳大夫

京極近江守

松平筑後守

松平下總守

有馬松千代

毛利右京

右老入ツツ太刀目録持参而各板縁二御礼自是

松平和泉守

右始其外在江戸大名衆二三人或、四五人太刀目録持参於

板縁御礼 過

一東一本

金地院

右板縁二御礼過て御次間二寄合衆諸役人各太刀目録持

参一同御礼

於鉄炮洲保生大夫勸進能仕候二付為御礼扇子捧今日御礼

雲雀式十

阿部伊豫守

井上河内守

太田備中守

青山大膳亮

永井右近大夫

永井日向守

堀田備中守

永井伊賀守

松平備前守

朽木伊与守

三浦志摩守

加々爪甲斐守

松平下野守

豊後守 美濃守被下之

一御側衆へ 縮二卷 晒二疋被下之

二日

別条無之

一御側衆被下如昨日

三日

如例年之今日御誕生日之御祝御酒餅被下之高家詰衆諸番

頭諸役人共被下之

先頃御勳氣御免之輩今日登 城謁老

至水戸宰相殿へ 上使松平監物御博看被遣之依之監物へ

金三枚時ふく式被下之

四日

巳刻西丸江被為 成

式日出座 美濃守

松平和泉守土屋民部少輔堀式部少輔在所へ御暇被下各被

下物無之

五日

御刀 大久保兵部少輔 午上刻大廣間 出御詰衆奏者番諸番頭物頭諸役人寄

合惣旗本之面々中召之如先例御法度御條目書改被 仰出

之 入御以後林春齋讀之

御本丸所々御門自今以後從辰刻未刻迄大門可開置之旨

被 仰出之

登 城之輩召御前先年所々 相定之御法度之趣今度損益

之被 仰出之間存其旨堅相守組中二支配之輩入念可申

付由 上意有之之御條目別紙有之

條々

一 忠孝をはけまし礼法をたたし常に文道武藝を心かけ義

理を專にし風俗を乱へからざる事

一 軍役如定旗弓鉄炮鎧甲冑馬皆具諸色兵具并人積無相違

可嗜之事

一 兵具之外不入道具を好私之着いたすへからず万儉約を

御暇時ふく三

於御座間雲雀三十 雅楽頭 同式ツツ

奥末廣二本 勸進能仕廻二付 保生大夫

用ゆへし知行損毛或船被損或火事此外人も存たる大なる失墜各別件の子細なくして進退不成奉公難勤輩可為曲事事

一屋作之営不可及美麗向後亦分限に應し可為簡略事

一嫁娶之儀式不可及華麗目今以後亦其分限に應し可省略

一縦大身たりといふ其長柄つり奥三十丁長持五十棒に過へからず惣以此数量分限に應し可沙汰事

一振舞之膳七五三等之饗応之外木具盃之臺金銀彩色糸のつくり花停止之但暗之會合嫁娶之時木具盃之臺用捨すへし惣振舞之儀かろく致し酒乱酔に及へからざる事

一音信之礼義太刀馬代黄金一枚或銀十枚分限にしたかひ以此内可減少之或銀一枚青銅三百疋礼物百疋に至るまで可用之小袖十如右可減少之雖為大身不可過之惣

一諸色以此積用遣之へし固持大名と礼義取かはしの時も此上之華麗いたすへからず勿論酒肴等も可為輕少事

一行死罪者有之時役人之外一切其場へ不可懸集事

一喧嘩口論堅制禁之若有之時令荷擔其咎可重於本人惣

一喧嘩口論之刻一切不可馳集事

一於城中萬一喧嘩口論有之節其相番中可計之狼他番より不可寄集番無之席其所へちかき輩可取扱之令油断可為越度事

一火事若令出来役人免許之輩之外不可懸集但役人差圖之者可罷出事

一本主之障有之不可相拘叛逆殺害盜賊人之届あらは急度可返之其外輕咎之者に至て侍届次第可追払之小者中間可返之於難儀番頭組頭令相談可濟之頭なきものは其並之輩可致談合若有滯所違役者可受差圖事

一於諸家中大狂人はは難儀者底參之輩取持相かこふへからざること

一何事にをひても不可致私之爭論若甲旨あらは番頭組頭可相談之頭なきものは其並之輩に及談合可濟之滯儀あらは違役者可受其旨事

一百姓訴訟之事双方之番頭組頭違穿整其組之荷擔不致相互合談合可濟之頭なきものは其並之輩合可濟之滯儀あらは違役者可受其例然上地頭代官勿論番頭組頭其列之輩不及出於評定所事

一知行所務諸色相定年貢所當之外非法をなし領地亡所にいたすへからざる事

一新地之寺社建立亦可令停止之若無提子細有之違奉行所可受差圖事

一跡目之儀養子存生之内可致言上及末期雖申之不可用之雖然其父年五十以下之輩雖為末期依其品可立之十七歳以下之者於致養子吟味之上許容すへし向後同姓之義同甥同從弟同また甥再從弟此内をもつて相應之もの撰へし若同性於無之入贅娘方之孫姉妹之子種替之弟此等其父之人からにより可立之自然右之内にても可致養子者於無之違奉行所可受差圖也雖為実子筋目違たる遺言立へからざる事

一嫁娶養子之儀付食たる作法不可仕事

一結徒党致荷擔或妨なし或落書張文博奕不行儀之好色其外侍に不似合事業不仕事

一徒若黨衣類さやちりめん平嶋羽二重絹袖木綿の他停止之事

一付弓鉄炮之者絹袖布木綿之外不可着之小者中間衣類萬に布木綿可用之事

一物頭諸役人萬事付不可致依估諸役者其役之品々常吟味致不可油断事

一家業無油断可相勤事

右條々依先制之旨損益之今度定之畢堅可相守之若於有違犯之族者礼科之輕重急度可處罪科者也

寛文三年八月五日

御朱印

六日

今朝大坂・飛脚到来島居主膳正事為御加番代被遣之去

月晦日彼地へ到着於鏡町旅宿主人扶持人之外科松谷壽

覚去朝日辰后刻氣違脇差祓之主膳正側在之小姓渡辺七

十郎捕之処七十郎切之數ヶ所手負其次席在之佐野弥兵衛

衛間付出合候處是又手負件壽覺事則主膳正切害之然

共主膳正被就依深手死去也彼地御目付為檢使相越候旨

島居主膳正死去是 大坂加番 被遣候処 醫者氣違

之由主膳正切殺候彼外科松谷壽覺と申當座家来出切殺之去朝日之事也

兩典厩尾紀水家来招之前被 仰出御法度出之写 法皇

女院御所御作事御造畢付御移徒御祝儀書付渡之

法皇へ 女院御所へ

（巻物三十種一荷） 紀伊大納言殿 （巻物十種一荷二種） 徳川右兵衛督殿

（巻物三十種一荷） 尾張中納言殿

（巻物三十種一荷） 水戸宰相殿 左馬頭殿 右馬頭殿

（巻物三十種一荷） 左馬頭殿 右馬頭殿

（巻物三十種一荷） 右馬頭殿

女院御所へ

（銀三十枚一荷二種） 紀伊殿

（銀二十枚一荷二種） 尾張殿

（巻物十種一荷二種） 水戸殿

（巻物十種一荷二種） 紀宰相殿

一松平讃岐守内儀死去付 上使下曾根三十郎被遣之

一上杉播磨守所勞付 上使安藤九郎左衛門御鷹之雲雀三十被遣之

七日 大坂加番 本多飛驒守

右被 仰付之島居主膳正代也

奥八朔御祝儀禁中・銚子折枝大高被遣之

一松平讃岐守内儀死去付父子正上使下曾根三十郎

一上杉病氣付御使雲雀被下之

八日 火之番紅葉山 土井能登守

右被 仰付之 松平市右衛門

時服二 御殿 品川内膳正

法皇 女院御所来 廿一日御徒移付為 上使可被遣之旨

被 仰付也

九日

巳刻西丸^江被為 成御供如例端午之御内書如例出之御一門方使者等^江時服被下之其外酒井雅樂頭宅^二出之

奥 西丸^二番士乘馬 上覽^{御目見}
松平監物

十日

黄金十枚
時服二羽織

是^八昨日被 仰付候於 御座間

品川内膳正

松平和泉守

代り 松平日向守

京都へ御祝儀物

法皇へ 銀式百枚
卷物三十

女院御所へ 銀式百枚
卷物二十

女三宮へ 銀子百枚

銀二十枚 宣旨

綾小路 女院御方

惣女中 式百枚

御臺様・女院御方へ

銀子百枚

女三宮へ 銀子三十枚

十枚 せんし

十枚 綾小路

女院 百五十枚 惣女中

女三宮御方 銀三枚 おき五

あや御乳人

野々山丹後守

十枚ツツ 板橋志摩守

從大坂長崎飛脚到來先月廿六日長崎表亥刻・丑刻迄大風雨小屋等轉倒之由注進之

十一日

時服三 御暇

相良達江守家來

米良主膳

十二日

式日出座豊後守美濃守

十三日

大目付 御目付

不残 御座之間被 召出今度被 仰出候御法度之御條目諸人相守可申旨若違在之者在之^八用捨なく可申上候

且又殿中作法猥^二無之樣精入可申旨 上意

禁裏へ初菱喰御進献之宿次

十四日

向馬頭殿へ 上使美濃守

御灸 九之愈

十五日

參勤御礼

金馬代

銀馬代

同断

箱肴

時服三

羽織

時服十

金五枚

ツツ

金二枚

時服二

御暇

稻葉能登守

内藤飛驒守

毛利伊勢守

榊原越中守

松平靱負佐

本多飛騨守

大坂御目付

佐々又兵衛

西尾藤兵衛

渡邊筑後守

駿府御目付

小出大和守

久世大和守

召之 召之領内^二有之銀山大和守へ被下之旨被 仰渡候 御役替

召之

大猷院殿御取立之者^二在之付^二今度阿部豊後守稲葉美濃守同役老中^江被 仰付之

去項上使松平監物被遣御礼

御機嫌伺

紀州到着^二付御櫓香被献之

道中へ御尋奉書御礼

束書

樽代

伊雜宮還宮御礼

樽代

水租公使者

松平一学

興津十左衛門

紀相公使者

澁谷覺右衛門

栗生源五右衛門

担那院弟子

又兵衛二男

伊勢内宮

惣代

勢州御代官

佐野平兵衛

土井能登守

召之久世大和守代り土屋但馬守同役被 仰付之御旗本之輩支配可仕旨被 仰付之

御暇時ふく五

三

四羽折

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

三

水戸殿使者

松平一学

興津十左衛門

紀相公使者

澁谷覺右衛門

栗生源五右衛門

佐野修理大夫使者

外村大学

松平對馬守使者

仙石左近

十七日

紅葉山 御名代豊後守

十八日

於御座間紀伊亞相 御對顔病後登 營^二付^二也

十九日

巳刻西丸被為 成御供如例

兩番乘馬 上覽

本院新院へ初菱喰御進覧宿次

御暇時ふく式

一根生院事從 大猷院様御代到に今御祈禱被 仰付付

彼寺領百石上方 有之如願於關東替被下之剩唯今迄借

地直被下之旨也

一鉄炮張宗党事九州 知行百石有之彼領分・先年切支丹

宗門之者数多出候 付右知行所被召上之向後御藏米

替被下之旨

一御手大工頭二人同小頭三人同並大工二十二人右之通可召

抱旨鈴木修理木原内匠達之

右之取

三十五俵三人扶持ツ 御手大工式人 三十俵三人扶持ツ 同小頭三人

三十俵式人扶持ツ 同並大工式十人 小頭工頭

岩瀨三右衛門 此三人同

心六人三十俵式人扶持ツ

廿日

上野へ 御名代美濃守

松前志摩守・注進

夷之地ニうすと申所御座候私罷在候所・北之方ニ當リ

七日路御座候

右うすと申所之大山焼申ニ付七月十一日・十三日迄間もなく

少ッ地震仕候同十四日明時分・山事外焼出同十五日ニは弥

大地震仕夥敷浦山共ニ鳴渡り白灰降申うす近辺之夷之

家とも焼申或ハ灰ニ降埋申候夷人五人立退兼相果申候

右之山十之物一ツニ程崩残り申候山之焼灰ニニうす・

私在所之方海上ニ日路之間汀・二千七百間程陸地之を

く罷成候夫・沖も降うつみ申候へ共足場やはらかに

御座候ニ參かたく速折ひより見申候へ浪うちきは目ニ難及

躰ニ御座候

右より過半鳴止申候へ共七月末迄すきとは鳴止不申頃迄右

之山焼申候近国へも事外鳴渡り申候此旨昨日在所・申来候

廿一日

先月廿五日蝦夷松前夥敷地損ニ而海山混乱人馬も大分死

申候又山中・火出焼申候由注進有之

法皇 本院へ初鶴御進覽

廿二日

今朝風雨ニ付諸大名・御機嫌伺使使者

式日出座 美濃守

門奈助右衛門

諏訪部文九郎

右奥州御馬買ニ被 仰付之

去ル十四日之晩御城ニ而馬代銀失ニ付今日馬代奉行評定

所ニ被 召出之其日番之者ヲ御詮議之内井上河内守へ御

預被成候由

長谷川藤右衛門

内藤七郎

同 孫七郎

右當月廿三日父御預ケ 御免也申分ルニ付而也

廿三日

大

紀伊御使可被遣旨被 仰渡是相公帰国ニ付而也

日光山破損ニ付御普請奉行被 仰付

神保四郎右衛門

佐久間宇右衛門

日光 新宮 本宮 瀧尾 寂光 中禪寺

右五ヶ所破損ニ付修復奉行

播州多田院之宮破損ニ付今度修復奉行被 仰付之

青木甲斐守

名取半左衛門

松田九郎兵衛

美濃代官 石見代官 杉

時服ニ羽織被下之

時ふく三羽折 御暇

時服ニ羽織被下之

奥大森信濃守御番御免豊前式部並被 仰付之

廿四日

増上寺 御名代豊後守

御役替

大坂町奉行 松平隼人正跡

千石御加増 石丸石見守

駿河御定番 松平新平跡

千石御加増 天方主馬

館林相公城代

金田惣八郎跡 大久保荒之助

右相公被為附三千石御加増相公被下唯今迄取来候二

千百石者 惣領権十郎被下御家ニ被 召置候旨被 仰付

之依之為引渡相公ニ 上使稲葉美濃守被相越之

新院御所へ初鶴御進覽 女院御所へ初菱喰御進覽

廿六日

参勤御礼

伊東監物

金馬代 銀馬代

中坊美作守

西尾・本高式万石ニ而下館ニ得替被 仰付

時服三

三千石御加増都合式万三千石ニ而三州西尾城主被 仰付

土井兵庫頭

御臺様へ 晒布十疋

銀五枚ツツ あむめ

三枚ツツ 岡野

表使三人 川崎

式枚ツツ あき野

おとは 三沢

銀馬代 大坂在番婦

大坂加番婦

酒井備中守

戸田備後守

戸田淡路守

両組 中

組頭八人

鳥目

初御目見

下總守美子森川伊賀守一男

渡邊大隅守三男

成瀬惣右衛門二男

下館之城増山兵部へ引渡被

久保平右衛門

村瀬伊左衛門

大草主膳正

金十枚 御暇

右紀伊殿国元へ上使

是紀伊相公國元へ參着ニ付而 遣之

時服四 在所御暇

羽織 被下物 無之

銀十枚

御具足屋 岩井与左衛門

西尾主水事 八兵衛相改

水相公使者 佐藤伊右衛門

久世大和守加判之列被 仰付

銀馬代 参府

中坊美作守

岩井与左衛門

右替ニ付

増山兵部

土井兵庫頭

御臺様へ

あむめ

岡野

川崎

あき野

おとは

大坂在番婦

酒井備中守

戸田備後守

戸田淡路守

両組 中

組頭八人

鳥目

初御目見

下總守美子森川伊賀守一男

渡邊大隅守三男

成瀬惣右衛門二男

下館之城増山兵部へ引渡被

久保平右衛門

村瀬伊左衛門

大草主膳正

金十枚 御暇

右紀伊殿国元へ上使

是紀伊相公國元へ參着ニ付而 遣之

時服四 在所御暇

羽織 被下物 無之

銀十枚

御具足屋 岩井与左衛門

西尾主水事 八兵衛相改

水相公使者 佐藤伊右衛門

久世大和守加判之列被 仰付

銀馬代 参府

中坊美作守

岩井与左衛門

岩井与左衛門

廿七日

至紀州宰相殿へ 上使被 仰付為御礼松平左京大夫被差

善提所也

上州高崎大信寺領百石御寄附是駿河重相忠長卿依為御

銀十枚

岩井与左衛門

中坊美作守

佐藤伊右衛門

水相公使者

八兵衛相改

西尾主水事

岩井与左衛門

御具足屋

無之

時服四

在所御暇

羽織

被下物

無之

銀十枚

御具足屋

岩井与左衛門

西尾主水事

八兵衛相改

水相公使者

佐藤伊右衛門

岩井与左衛門

中坊美作守

佐藤伊右衛門

水相公使者

八兵衛相改

西尾主水事

岩井与左衛門

御具足屋

無之

時服四

在所御暇

羽織

上之

御暇時ふく三

水相公使者

佐藤伊右衛門

廿八日

參勤御礼

金馬代

黒田甲斐守

銀馬代

亀井能登守

同

一柳監物

同

松平駿河守

下館在番届

西尾八兵衛

一色右京

土井兵庫頭

(時服五羽織)

御暇

駿府在番

酒井内記

牧野半右衛門

銀二十枚

右組中

一上州高崎天信寺へ寺領百石被下之是、駿州大納言殿御

菩提故也

一 火消被 仰付之

上旬

大村因幡守

九鬼長門守

土方備中守

秋田安房守

久留嶋信濃守

木下兵部少輔

市橋下総守

細川豊前守

西丸へ 渡御

奥 書院大番乗馬上覽

廿九日

土井能登守

右阿部伊豫守上ヶ屋敷神田橋之内被下之

女院御所へ初鶴以宿次御進献之

奥 尾黄門少々種物 付筑後守以御菓子被遣之

柳宮日記記

寛文三 卯年

九月

朔日

御刀 大久保兵部少輔

時服四 參勤

金馬代 御礼

同

松平中務太輔

脇坂中務少輔

初御目見 安藝守二男

時服六 金馬代

松平長藏

御即位^二付公家衆參向^二付御馳走人被^二仰付之

勅使

小出大和守

柴村七郎右衛門

水谷伊勢守

野村彦大夫

龜井能登守

高室四郎左衛門

大村因幡守

中川八郎左衛門

東本

御暇

東卷

寺院修復御礼

久世大和守加判之列被仰付^二付

參上

本因坊

岩松万次郎

大刀目録^初

常陸下総谷原新田依被^二仰付彼地障有之給所之分代地

被下但去亥年・去年迄ならし收納之物成つめを以代地

被下之右之面々殿中へ招之書出之老中渡之

内藤飛騨守 本多豊前守 八木但馬守 青木遠江守 嶋田久太郎

横田二郎兵衛 小栗又兵衛 杉浦市右衛門 鍋嶋孫平太 本多百助

永井弥右衛門 嶋田兵四郎 高林弥一郎 相馬小次郎 井上内藏允

三七与左衛門 鈴木弥治右衛門 難波田権六郎 三宅太郎左衛門 大沢二郎左衛門

筒井七郎左衛門 伊吹市右衛門 武蔵孫之丞 井関伊兵衛 青木小右衛門

戸田藤兵衛 嶋次左衛門 伊奈九左衛門 嶋藤左衛門 荒川長左衛門

飯室与兵衛 曲淵助之丞

右之外 松平龜千代 藤堂大学頭 松平和泉守 新庄隠岐守

領地役所^三有之付^三是又右之通代地被下之

二日

無別条

蓮池馬場御乘馬有之

三日

御役替

御鉄炮頭

岡野権左衛門跡

御徒土頭

中山勘解由跡

御弓頭

大久保荒之助跡

御書院与頭

石丸石見守跡

御書院与頭

天方主馬跡

中山勘解由

川口源右衛門

水野小左衛門

伊沢主水正

森川八郎右衛門

右之通被 仰付之

重陽之呉服上ル

相良老岐守 女院使御馳走雖被^二仰付病氣付代大村因

幡守被 仰付

知恩院御門跡へ 吉良上野介を以御菓子被遣之^奥疾^疾付^付也

御暇時ふく三

御役替

西丸御留守居

水野小左衛門跡

跡目二千石 備後守猶子

千五百石 勘兵衛養子

千石 三郎兵衛子

右被 仰付之

安藤太郎七

小畑又兵衛

式日出座 豊後守

御役替

西丸御留守居

水野小左衛門跡

跡目二千石 備後守猶子

千五百石 勘兵衛養子

千石 三郎兵衛子

式日出座 豊後守

御役替

西丸御留守居

水野小左衛門跡

跡目二千石 備後守猶子

千五百石 勘兵衛養子

千石 三郎兵衛子

式日出座 豊後守

御役替

西丸御留守居

水野小左衛門跡

跡目二千石 備後守猶子

千五百石 勘兵衛養子

千石 三郎兵衛子

式日出座 豊後守

御役替

西丸御留守居

水野小左衛門跡

跡目二千石 備後守猶子

千五百石 勘兵衛養子

千石 三郎兵衛子

式日出座 豊後守

御役替

西丸御留守居

水野小左衛門跡

跡目二千石 備後守猶子

千五百石 勘兵衛養子

千石 三郎兵衛子

天野百助

千俵

甚十郎子

朝倉宮内

右跡式被 仰付

戸田相模守仙石因幡守阿組頭伊沢主水正森川八郎右衛門

引渡有之

法皇御作事手傳之面々家来へ銀時ふく等被下之

伊東監物加藤出羽守戸川土佐守毛利伊勢守右四人家来等也

女院御所御作事手傳之面々家来へも同斷

黒田甲斐守稲葉能登守一柳監物右三人家来共也

禁裏へ御鷹之鶴御進覽宿次

五日

重陽之御祝儀御一門方始諸大名時ふく献上之

日門御登山^二付久志本内藏允差添被遣之

奥一寺社奉行^江御役義弥可入精旨面命

六日

一大坂掃參之大御番兩組在番改有之

一北条右近大夫組之小普請渡辺新助伯母鍋町之屋敷御用

^二付被 召上之為其代本庄之内 ^三被下之彼地坪数不足

^二付 足地神田紺屋町 ^三被下之引料金貳百兩被下之

一真田伊豆守長男河内守惣領伊賀守事幼少之時父河内守

令病死所讓之金子貳万八千兩祖父伊豆守預り置其後伊

豆守令隠居家督二男内記相統被 仰付已後内記令死去仍夷

子右衛門^二跡式被下之其以後伊豆守令病死也右之預り置

證文之事伊豆守家老三判之内二人へ死去大熊鞆負存世

割形在之伊賀守所持之鞆負儀右衛門相属依之今度彼金

可致返弁之由自伊賀守鞆負方へ相改之右之金之儀伊賀

守部屋住之内入用^二遣之帳^三面^三注置之余^三伊豆守蔵へ入置

其後伊豆守死去之御伊賀守右之蔵へ封附之被進退之旨

不存之由令返答不承引於其子細^三其御件之證文可取戻

之処に今伊賀守所持之付^三及争論右之趣及 高聞之處

鞆負儀不届被 思召土岐山城守へ御預也今日於評定所

北条安房守罷越鞆負呼寄之被 仰出候趣申渡之

申渡覚

今度預り金出入之儀真田伊賀守方^三儲成證文有之鞆負

申訳相立候得共其鞆伊賀守方・件之字形可取戻之所其

俣差置候儀不念^二付大熊鞆負儀土岐山城守へ御預被 仰

付者也

右之通真田伊賀守家来青柳五右衛門富沢外記池原内匠阿部

彦太郎へ申渡之

一女院・重陽時服被進之増山仙光院へ當座之御心付^三金

五百兩被下之

七日

紀伊重相使者

法皇女院御所御移徙相請珍重之由 尾張黃門使者

三浦長門守 竹腰山城守

八日

無別条

町奉行村越長門守渡辺大隅守御勘定頭岡田豊前守妻木

彦右衛門 御座間へ被召出之評定所其外支配方之儀万事

出精之由被 仰出且又可申上儀於有之^レ可致言上之由

上意也

フ家一走水奉行與八郎次男佐野彦大夫分知貳百石

九日

已刻黒書院 出御

兩 相 公

御對顔次白書院^江 渡御

尾張黃門

徳川兵衛督

松平左兵衛督

井伊玄蕃頭

保科筑前守

右御礼過^而

巻数 御礼

山王別當

最 教 院

同所神主 日吉大膳

右御礼過^而

大廣間

渡御

松平越後守

松平加賀守

松平新太郎

松平大隅守

松平相模守

松平左京大夫

松平出羽守

松平安藝守

松平大膳大夫

松平但馬守

森 内記

松平刑部太輔

松平播磨守

松平阿波守

藤堂和泉守

伊達大膳大夫

松平筑後守

京極近江守

有馬松千代

毛利右京

本多内記

松平下総守

松平石見守

金 地 院

知 足 院

保科肥後守

松平式部太輔

松平薩摩守

松平右京

右過^而御旗本之面々三千石以上之寄合法印法眼諸番頭

諸役人並居一同御礼

今日大名衆煩之面々

を始其外一万石以上之面々次第不同^二罷出御礼次^三

藤堂大宇頭

森内記

伊達大膳大夫

宗對馬守

左馬頭殿へ湯治御暇 御直被 仰出之

十日

九日也

甲府參議

於 御座之間湯治御暇被遣之

十一日也

土井能登守

右向後御敷寄屋方之支配可仕旨被

仰付之

品川内膳正婦參謁老

奥一振廻膳部之書付出

十一日

別条無之

日光御祭礼^ニ付青山大膳亮被遣之

奥州へ御馬買為御用罷越^ニ付

金三枚時ふく式^ツ

諏訪部文九郎
門奈助右衛門

奥土井能登守御敷寄屋方御用被仰付之

御蓋様へ御伽羅二木被遣之

十二日

御座之間へ北条安房守保田若狭守被 召出之耶蘇宗門

穿鑿之儀入精之段被 間召弥無油断可申付之旨

日光御名代

御祭礼

戸田土佐守
青山大膳亮
福善寺

山意^ニ三式人

伊豆三宅嶋流罪被 仰付之此公事^ニ付町人證抛人^{タル}

付京都追放被 仰付

御暇銀五枚

於評定所京浄土宗福善寺と医師意三出入裁許有之

被仰渡覚

一福禪寺事今度於京都致自讚毀他之法談之儀先年浄土宗へ

被 仰出候御條目を相背之段曲事其上於當地御穿鑿之砌

偽を申候条死罪^ニ雖可被 仰付當年^ハ遠忌付^ニ宥其科

被處遠嶋候事

一意三事福禪寺へ経論积書令持参含宗論候段俗人^ニ不似合

儀曲事^ニ付其上當地御穿鑿之砌偽を申条雖可被處死罪^ニ

當年御遠忌^ニ付被宥其科遠嶋被 仰付候事

一新右衛門事意^ニ同道福禪寺へ相越候段不屈^ニ候間京都被成

御拂候事

十三日

西丸被為 成御供如例

法皇 本院へ初鶴御進覽宿次

十四日

西丸へ御成兩番乗馬上覽

石清水八幡宮被損付^ニ先頃修復料被下之永井右近大夫

為近所之間折々家来差遣万事廉相無之様可申付旨老中

傳之

奉行^ハ二条御番衆之内可被 仰付由也

十五日

御刀 欠

參勤御礼

金馬代

時服十羽折 御暇

時服十 御馬老正

時服六

同五 羽織

同三 羽織

同三 羽織

被下物

無之

時服五 羽織

同三 同断

右何も御暇被下之

束巻

束本

參上

醫王院

當山二之宿

了榮

源右衛門

紫衣御礼 誓願寺

願寺

當山二之宿

御菜師 辻善徳

古筆見 了榮

源右衛門

十六日

新院へ初鶴御進獻宿次

紀伊巫相於 御座御對顔 病後初^也

十七日

紅葉山御宮御社參御供如例

御刀 松平因幡守 御沓 大久保兵部少輔

御先立 雅楽頭

尾紀病氣付陪拜無之毘沙門堂御出迎 井伊玄蕃頭 御目見

豫參 雅楽頭 御供 豊後守 美濃守 板倉筑後守 松平民部少輔

森川下総守

奥幸若上覽

十八日

尾黄門病氣^ニ付 上使本多土佐守

十九日

無事 奥松平因幡守大久保出羽守石川美作守向後御膳差引被

仰付之

一蓮池御乘馬

一表御台所人池永清右衛門子清兵衛九月朔日之夜辻切^ニ

逢候^ニ付江戸拂

辻番人手負を送届不申^ニ付二三日彼所へさらし籠舎

廿日

上野^江御參詣御供如例

横山内記

御能初 雅楽頭
式三番 喜左衛門

加茂 金剛 頼政 十太夫

采女 保生 藤榮 十太夫

祝言 八之丞

八幡前傳右衛門 布施ない経佐左衛門 腰いのり勘左衛門

右御譜代大名何も御饗応被下之尤要脚廣蓋在之

雜人見物被 仰付之

廿八日

禁裏院中片御普請出来 付帰參

織田五郎左衛門

鈴木弥二右衛門

由良新六郎

大井新右衛門

相木弥五左衛門

山下五郎右衛門

新庄与三右衛門

右六人 御目見

二種一荷

束本

○駿河大納言御菩提所付新規寺領百石御寄附被下也

東卷

輪番代

參上

成院

壽性

銀馬代

樽代

御暇時ふく三

御暇時ふく一

言上之

紀伊相公御国元へ為

言上之

御太刀 大久保出羽守 御刀 本多土佐守
勅答如何相畢而管弦 御聽聞 出御

平調調子

五常樂 大平樂 殘樂 廣徳 嘉辰

此三人樂謠郢曲之

郢曲

飛鳥井

勅修寺

小倉中納言

小倉中納言

上 左兵衛高唐

山井安藝景明

東儀淡路季治

多 佐渡忠朝

飛鳥井大納言

勅修寺大納言

芝山中納言

中納言

清閑寺大納言

小倉中納言

難波中将

三宅図書

櫻井掃部

保田宮内

本多左京

桑坂主水

柏内匠

木村筑後

豊田伊織

同 志摩

御冠師

御裝束藏物師

御裝束藏物師

同 志摩

同 志摩

一管弦 御聽聞可被遊付而入御之間二樂人祇候之役席

但南之縁通東之枕障子取除之敷居際東之方一畳隔之
四人一列二太鼓役人也後屏風立之

一音楽為御聽聞重出御上段御着座一松平讓岐守井伊玄

蕃頭出座南之明障子際祇候詰衆御番頭物頭等東之間

群候

一勅修寺飛鳥井一同出座下段西之方着座數前中納言琴之

小倉中納言琵琶之出座東の方着座後事小堀下總

守持出之數中納言前二置之琵琶戸田撰津守持出之小倉

中納言前二置 音楽之次第平調調子五常樂 大平樂 嘉

辰郢曲廣徳右之段 奏之但大平樂終而飛鳥井大納言起

座數中納言着上座然而飛鳥井數小倉徵音朗詠相畢而

琴小堀下總守引入之琵琶戸田撰津守引入之此後御會積

被遊 入御各退座

一祇候之面々布衣以上着裝束

晦日

小袖二 御暇

辻 宗徳

甲府相公熟海江到着為 上使石川美作守被遣候由被

仰渡

勅使旅籠へ御用二付 上使雅楽頭豊後守美濃守大和守并

若狭守被遣之今度 御即位為勅使參向之儀珍重被 思

召旨依之別而御祝儀被遣旨也

數前中納言小倉前中納言昨日管弦被 仰付 御聽聞御満

悦被 思召旨

金十枚

襦袢十卷

綿百把二ツ

勅修寺前大納言

飛鳥井大納言

小倉前中納言

雙カ 一カ

上使森川下總守

紀伊大納言殿

尾張中納言殿

松平因幡守

右馬頭殿

廿九日

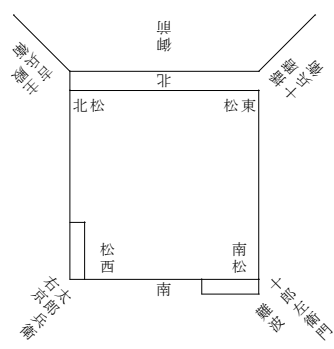
柳營日次記
寛文三 癸卯年

十月
朔日

昨日舞楽被 仰付_ニ付被遣之
黄金十枚
巻物十

綿百枚

右上使吉良若狭守以



勸修寺
飛鳥居
菽小路

右白書院也鞠之掛り六間四方也南ノト角ノト西ノ角ト此
二所口有扱高サ三間也扱二またの松計四方ハ植申候角よ
り九尺ツ置てうへ申候御廊下之方ニ幕ヲ打て此嶋より飛
鳥井難波出ル其幕也前ニ二畳在之是より杏をハキ
午上刻より黒書院 出御 御長上下 御刀 松平紀伊守 諸大名
月並之御礼畢 白書院へ 出御東之御次之間ニ御簾下段ニ
御上畳有一衝立之次ニ御詰衆諸番頭諸物頭當番計役人等
並居
始ニ鞠指テ出ル右京扱納持_而出ル同人始ニ飛鳥井出候へ
て其勤を松ノキリヨリトイテ地ニ置其枝ヲ持テ去ル時ニ
播磨出_而是_ヲ請取_而退く飛鳥井難波二人ハ西ノ口・六人
之詰之者ハ南ノ口より出入ス鞠過_而後ニ黒書院ニて御吸
物御盃之上ニ_而代々不相替可勤付御判被下之

小袖十
同六
小袖ニツツ
江戸
岩村小兵衛
難波
飛鳥井

同
藤井六兵衛
京・香具也
同 播磨

江戸
高橋太郎左衛門
難波家来
市川主膳

其時御作法御別紙有 持葉黄青_{ハクニ}飛鳥井黄金紋鳳凰
波白_キ六尺
蹴鞠之具共從飛鳥井並相被献之

蹴鞠始

枝鞠 飛鳥井家来 安田右京持出構之内へ入

御前西方構ニ立置之退飛鳥井前大納言鳥帽子狩衣朽葉

紗袴袴菊黄懸り之内へ入謝礼有之 西之方松之際伺公次

難波中将鳥帽子狩衣紫色金紋紗袴同 懸り之内へ入謝礼有

之 東南之角松之本ニ伺公此時飛鳥井右へ廻枝鞠取之

西南之松ニ持置之鞠計り取之 懸り之中央ニ持出置き復座此時

右京又出席 枝取之 藤井播磨ニ渡之此時詰之者共順々

構之内へ入面々座ニ着飛鳥井並相中央へ出席 上鞠被

始之復座也此節藤井播磨出 鞠始之順々詰之者共役之

但詰者六人内 二人ハ飛鳥井難波家来 四人ハ町人也

右飛鳥井難波其外詰之者共松木外出入也

御役替

左兵衛後

右三百俵御加増_ニ御小納戸被 仰付

二日

御暇時_ニつく式

天野弥五右衛門神尾五郎大夫從仙臺掃參登 城

石川美作守事至熱海甲府宰相殿へ為 上使被遣之旨

三日

御役御免

老病 奈良奉行 中坊美作守

御目見 左馬頭殿使者 内藤四郎左衛門

御暇時_ニつく式羽折

御鷹之鶴被遣之

天樹院御方 高田御方 千代姫御方 中丸御方

間宮仲左衛門律義 御奉公仕候へとも多病 付中臈 御出

被成養生可仕旨 御直被仰付其身 不申及一統奉存旨老
中・申上候

一戸田次郎右衛門川尻次郎右衛門討果

四日
式日 出座 美濃守

右熱海湯治_ニ付湯元_江夜着式フトン_{蒲団}老鶴石川美作守以
被遣之

五日

御鷹之鶴被遣之

上使三枝隠岐守 本多土佐守 御使番

尾張右兵衛督殿 保科肥後守 同断

水紀両相公へ宿次を以鶴被遣之

玄猪御祝 御刀松平因幡守

六日

御玄猪之御祝在之

西上刻白書院 出御

保科肥後守

松平讚岐守

吉良若狭守

松平出羽守

酒井雅楽頭

大澤兵部大輔

吉良上野介

藤堂大学頭

井伊玄蕃頭

松平式部大輔

松平刑部大輔

松平播磨守

保科筑前守

品川内膳正

戸田土佐守

島山下総守

阿部豊後守
稻葉美濃守
自是四品中大名家詰衆御旗本各罷出布衣上 御目見被下之右畢而入御

御使番持參
松平新太郎 松平大隅守 松平相模守 御鷹之鶴一 被下之

七日

御鷹之鶴以上使國持へ 被下之
鶴一ツ 松平讃岐守 松平出羽守 松平安藝守 藤堂大学頭 松平大膳大夫 松平阿波守

八日

御役替

是者 父丹後守老衰ニ付差添也

父丹後守御役可被成御免候へとも 女院御かし之被成候間其方罷登差添可相勘旨
女院御所へ可致勤仕旨也

上使御使番
森内記
成就院
壽性

九日

西丸午上刻被為 成御供如例之

跡目四万石 黒田宮内
市正養子
小笠原山城守
小笠原安五守
小笠原外記
小笠原内蔵助
松平内蔵助
上秋内記
鳥井兵部少輔
植村土佐守
佐野彦大夫
七之助

権左衛門子 岡野孫九郎
次男 田中孫十郎
高千四百石余内 千石
四百石余
家譜
○一父権左衛門大病ニ候得共就 上意日光御供仕既相果候儀不便に被思召候但権左衛門願置候通高右之通被下孫十郎ニ分知
被仰付候忌之中ニ被仰付候段難有奉存旨於百人組御番所
老中列座被申渡之
松平新平子 弥兵衛

右之通被 仰付之

先頃被召出御勘氣之面々一同 御目見席御小姓組番所前
○七郎兵衛子間宮惣右衛門小十人組被仰付
同 松田一 郎左衛門父助三郎御勘氣を請候て病死之処慶安四年九月御免之時市郎左衛門幼少成礼は祖父市兵衛小家に有て此日被 召出式百俵被下

十日

上使石川美作守 左馬頭使者
熱海へ被遣候御礼 山口出雲守
御暇 時ふく五 同 人

十一日

尾黄門・壺口切之御茶并御菓子御肴一種一荷被献之
式日 出座 豊後守
松平越前守国元へ 御鷹之鶴被遣之
井伊玄蕃頭へ鶴被下之 上使御使番 水野庄左衛門

十二日

別条無之
酒井雅楽頭出 御前鶴拝領之

十三日

一 月次如例
銀馬代 参勤御礼 京都 服部備後守

豆州 石野八兵衛
大坂御目付番 桑山源兵衛
仙臺藩 天野弥五右衛門
京都藩 神尾五郎大夫
大井新右衛門
狩野永真
同 采女
同 主殿

扇子

同 箱看
病後
参勤御礼
松平将監
土岐山城守
松平日向守
御暇

時服三十

松平式部太輔交代之処同人在江戸ニ付御暇被下之
同 四 初御暇
同 三 水口在番
羽折 御暇
束卷 紫衣御礼
永観堂 榊林寺
紀伊相公使者 朝比奈惣左衛門
水相公使者 伊達玄蕃
水相公使者 彦坂小十郎
紀伊相公使者 朝比奈惣左衛門
水相公使者 伊達玄蕃
彦坂小十郎

同

一本多越前守弟兩人可被召出旨也
一 細川越中守国元到着ニ付以使者巻物十御樽肴献上之
○一四郎兵衛次男山南孫四郎新規御小姓組三百俵

同

御暇 時ふく三羽折
細川越中守使者 沢村宇右衛門

十六日

御宮 御名代 豊後守
二丸火之番 松平日向守

十七日

右被 仰付
御暇 時ふく式羽折
上杉播磨守使者
松平甲斐守

奥運池御乘馬
平家御聽聞

十八日

保科肥後守於 御座間 御目見

十九日

西本願寺 光常 願之通可任僧正旨被 仰出也坊官下間宮内
卿へ達

廿日

紅葉山 御堂へ 御名代 美濃守
大坂御目付代

安藤九郎右衛門
能勢次左衛門

右兩人被 仰付

先頃五嶋之船逢難風朝鮮国へ着岸彼国・飯米衣類等与之
對州へ添簡送越之由對馬守言上之返簡案文林春齋認之
五嶋之者三人 長崎へ遣之彼地奉行へ可引渡旨也
水參頭使者
御暇時ふく三
石野太郎八

廿一日

時服五 繼目御礼 市正子
黃金五枚 繼目御礼 黒田宮内
御臺様へ銀十枚 幼少付名代
金五枚 主膳正子 甲斐守
御臺様へ銀十枚 鳥井兵部少輔
金五枚時服五 家督之御礼
同断 小笠原山城守
銀馬代 小笠原丹後守
同人三男 小笠原外記

金老枚 繼目御礼 植村土佐守
銀馬代 上杉内記
同 備中守 松平内藏助
同 備後守 安藤太郎七
備前兼光御腰物 黒田市正
代金十五枚 継物

志賀葉茶壺
行光御脇差
代金三百貫
備前兼生御脇差
代金六枚
參勤御礼
鳥井主膳正 継物
小笠原忠岐守 継物
植村帶刀 遺物

箱肴 自在所帰 伊丹大隅守
銀馬代 駿府加番帰 佐久間備中守
同 岡部主税 本多内膳

是者 在所直被越之由
本多内膳、駿府・直在所へ御暇
銀馬代 駿府在番帰 町野老岐守
箱肴 同与頭 加々八十右衛門

山吹之間 一同平伏組中 御目見
時ふく十羽折 御暇 脇坂中務少輔
六羽折 永井日向守
四羽折 青山大藏少輔
時ふく二十 小笠原信濃守
京都御暇 野々山新兵衛

先頃被 仰付通父丹後守差添 女院様御用可相勤者且又
七男新人郎次男上田兵八郎近日可被召出旨
仙臺御目付代
川口源兵衛
松田善右衛門

右被 仰付之
午刻一丸被為 成
銀馬代 參上 石野八兵衛
箱肴 明石権之丞

左馬頭殿、以藤枝撰津守御有一種被献之右馬頭殿縁邊被
仰出御礼也
為御機嫌伺左馬頭殿・小田切新右衛門被差上之
御暇時ふく三羽折 藤枝撰津守
同 式羽折 小田切新右衛門
奥參府 伊丹大隅守

廿二日

式日 出座 美濃守
昨日湯治帰付 上使大久保出羽守

箱肴 湯治帰 甲府相公
於 御座之間 御目見
御廬之雁式ッ被下 上使御使番
松平刑部大輔 松平播磨守 松平但馬守

廿三日
已刻西丸被為 成御供如何也
奥番士馬御覽
御廬之雁式ッ
上使大久保豐前守 上使御使番
松平式部大輔 松平左京大夫 伊達大膳大夫 有間松千代

廿四日
増上寺 御名代 豊後守
碁将某被 仰付
保科肥後守
松平讃岐守
井伊玄蕃頭

各見物
先 本因坊 二番目 四目勝 和 哲
三日勝 三 哲
初番勝五日 二番目同 勝 宗 与
三 入 二番目 宗 桂
初番上三番目勝 角落

二丸 奥嶋の御茶屋 御普請出来 付被下之
金一枚 小普請奉行 石野小左衛門
時服參 大工頭 木原内匠
小袖二ツッ 鈴木修理
銀五枚ツッ 増井一郎左衛門
小細工頭 三井加右衛門
品川八郎左衛門

駿府在番帰御書院番衆在番改有之
一去年正月於増上寺御法事中御賄御代官被 仰付
伊奈半左衛門 曾根五郎左衛門 八木次郎右衛門 南条金左衛門 雨宮勘兵衛
御暇 時ふく三 永親堂 禪林寺

廿五日

別条無之

女中衣類之直段被 仰付也此趣 禁中其外御女中方へも御書付被相達也

覺

一女院御所姫宮方上之御服一おもて付銀五百目より高直 仕間敷候夫・下之呉服品々により猶以下直可仕上之事

一御臺様上之御服一おもて付銀四百目より高直仕へからず夫・下之呉服品より猶以下直可仕上之事

一御本丸女中上之小袖一おもて付三百目より高直いたすましく候夫・下之衣類品寄弥下直可仕事

右之通京都江戸呉服師之輩共堅申付候御かんかへため写之差越候間御めし物下々之衣類かろく被仰付候様相心得可被

申達候 以上

十月廿五日

此書は牧野佐渡守又當地町奉行へ遣之呉服師共申付者也

廿六日

相模守二男 初番 松平長吉

出羽守三男 初番 加藤左兵衛

越前守二番目弟 初番 本多十右衛門

同左京子 初番 同 傳左衛門

同左京子 初番 高力刑部

内記二男 初番 横山数馬

甚三郎子 初番 設楽甚太郎

左京子 初番 神保主膳

久三郎子 初番 長谷川大膳

駿府城代 丹後守孫義子 初番 松平奎之助

源兵衛子 初番 久永金十郎

新兵衛子 初番 野々山新八

同人二男 初番 上田兵八郎

右老人ツツ 御目見

銀馬代 参勤御礼 太田摂津守

父病氣付得 上意俄参府 大坂鉄砲頭 嶋弥二右衛門

箱肴 御役御免参府 小笠原内匠

時服三 御暇被下

同断

御役替

御奏番

御書物奉行

右於 御前被 仰付

是者老中列座被 仰渡

御国元御鷹之鶴 紀宰相使者

祥領御礼 小笠原次右衛門

■上六右衛門 柴田三左衛門

■山邊道 佐野吉兵衛

普請仕廻籠御候 道奉行

深津長右衛門 天野孫左衛門 美濃部一學 西山十右衛門

小普請奉行 村上左衛門 花井次左衛門 廣戸半七郎 浅井八郎左衛門 山本安兵衛

松平二郎左衛門 原田平兵衛 須田次郎太郎 石野小左衛門 武藏八郎左衛門

右十四人御役付 辛勞仕候付三十人扶持充被下旨

廿七日 二九午下刻被為 成

御暇時ふく三ツツ 紀宰相使者

一老中炭取瓢被下之 小笠原次右衛門

廿八日 銀馬代 参勤 中川飛驒守

太刀目録 参勤 戸川土佐守

箱肴 参勤 板倉隠岐守

御暇時ふく三羽折 土岐左京亮

但屋敷無之者不残 五十軒 御小姓組

〃 〃 御書院番

〃 〃 御書院番

〃 〃 御書院番

〃 〃 御書院番

〃 〃 御書院番

〃 〃 御書院番

〃 〃 御書院番

〃 〃 御書院番

〃 〃 御書院番

〃 〃 御書院番

〃 〃 御書院番

〃 〃 御書院番

奥 西丸御馬被為召両番馬上覽

立花飛驒守宗對馬守へ 御使番以雁二宛被下之

廿九日

無別条也

松平加賀守家来證人代

安房子 本多数馬

参勤 小袖三太刀目録 同人子 本多万作

御暇 小袖三羽折被下

晦日

御鷹之馬式 以上使 被下之

京極近江守 佐竹右京大夫 松平筑後守 本多内記 松平下總守

毛利右京

柳營日次記

寛文三癸卯年

十一月

朔日

(時服十金馬代) 參勤御礼
(時服三羽折) 御暇
中坊美作守

是御役 御免候得共代り被 仰付迄可相勤也

箱肴 病後 松平但馬守

湯治掃 藤堂佐渡守

御肴 先頃御鷹之鶴拜願御礼 松平越前守使者 佐野式部

束卷 參上 高野山 清淨心院

御札進物 西之宮神主 本願太郎兵衛

進物 掃參 觀世大夫

御鷹之雁式 上使御使番 松平石見守

御鷹之雁式 奥平美作守

二日

高野山僧侶先年公事有之去亥八月廿二日御追放今日赦

免被 仰渡

字侶方

一何方ニ成共心次第可能在候 宝性院

一無量壽院之住職被 仰付也 高祖院

一如元碩學被 仰付也 大衆院

行人方

一興山寺之住職被 仰付也 見樹院

一掃山被 仰付也 蓮花定院

方瓶院

但是、以來組頭欠於有之、組頭可被 仰付由

御暇時ふく式羽折 松平越前守使者 佐野式部

三日 無別条

四日

御鷹之雁式 被下之 南部山城守 松平飛騨守

一ッ 被下 松平中務大輔 牧野飛騨守 石川主殿頭 本多越前守

岡部内膳正 土岐山城守 諏訪因幡守 内藤帯刀

本多下總守 松平丹後守

水宰相・以川澄勘解由鷹之鶴被獻之 御臺様へも雁式被獻之

是御暇之節拜願之御鷹挑し候付也

於評定所申渡

身延山 久遠寺

池上名代 大坊

中山 法花経寺

覺

御當家被下淨土宗御條目之内自讃毀他最是為法裏之同

評論之儀堅可制止事と御書出之通此度日蓮宗へ同前被

仰出候間向後可相守其趣若於違背之輩へ可行罪科之

旨候余令承知之末流等急度可被申渡者也

右三僧へ如書付相渡之向後書面之通急度可相守旨也

保生座役者御暇如例年時服銀等被下之

銀二十枚 保昌大夫

時ふく武 春藤権七郎

銀十枚

六日

御役御免

御持筒頭

老 坪内半三郎

病 御鉄炮頭

老 初鹿野傳右衛門

同 三宅弥二兵衛

豆州走水口番 松崎権左衛門

荒井御番 三宅半七郎

病 右五人願之通御役 御免被成下之

依老衰可作事奉行 御免 牧野織部正

右取来候知行千式百石○養子數馬ニ被下 御切米三百俵、織

部正隠居料被下也

朝比奈左近

隠居被 仰付知行千八百石 御小姓箱石川美作守組 息勘右衛

門被下之勘右衛門御切米三百俵、左近隠居料被下也

能勢惣右衛門

右隠居被 仰付知行千二百石之内千石者 御小姓組松平因

幡守組惣領惣十郎式百石者 二男三十郎分被下之惣十郎取

来三百俵、惣右衛門隠居料被下之

御鷹之雁式 上使御使番 保科筑前守 松平右京

七日

右於本庄五千坪下屋敷被下之

地震強ニ付老中登 城

阿部伊豫守

八日

今朝日光・飛脚彼御山一昨子刻地震之処別余無之由注

進從此方も宿次 昨酉后刻戌上刻當地地震也御山異事無

之候哉被聞召度旨也

一昨夜地震ニ付御一門方諸大名・使者差上之

御暇時ふく三羽折 水宰相使者 川澄勘解由

野々山新兵衛事京都へ被遣ニ付 御暇被下之在京中三十人扶

持ッ 被下之旨

九日

日光・飛脚一昨七日御山少地震之由申来 牧野佐渡守

右依病氣同名因幡守京都 被遣之看病之為仕候旨也則御

暇於 御前御召之羽織被下之

奥老中江戸近在 當春被下候采地正代々可參旨

十日

御暇被下基打将某指右 如例被下之

銀十枚 本因坊

門入

算哲

算哲

知哲

宗閑

宗与

時ふく式 宗桂
時ふく式 了宗

於 御前御鷹之雁式^ツ 豊後守美濃守拝領之
同鶴被下 上使水野庄左衛門 松平丹後守

奥 雅楽頭知行所内鷹場ニ^ニ 殺生可仕宗

十一日

西丸へ午上刻被為 成 奥 番士乗馬御覽

幸丸事 禁裏奉公相動候様有之度由尾黃門願之通及上聞候
於於然^者為清花列可有勤仕旨被 仰出依之尾張殿家老へ
達之

一 雅楽頭豊後守美濃守大和守事代々面々近所之知行所へ
罷越一兩日先令滞留可致休息旨一昨日蒙 仰今日雅楽
頭発足以 上意御鷹師衆召具也葛西筋へ相越^{云々}

十二日

式日 出座 美濃守
一 為御機嫌同從葛西筋雅楽頭差越使者以 御鷹捉之雁式献
上之

一 飛鳥井前大納言使者保田右京を以薰物三器御太刀目録
献之是先頃參向之節鞠道之御判物頂戴之御礼也
御暇 時ふく式 上使御使番 飛鳥井前座相使者 保田右京
御鷹之雁式被下 松平特監

十三日

為御鷹狩麻生筋へ 御成 御物数鶴一雁三十一鴨三
供奉土屋但馬守松平民部少輔森川下総守

(日次記の十二日の記事(十三日也の添書き))
麻布筋^ニ為御鷹野被為成御物数鶴一鴨三馬三十一 惣御物数三十五

十四日

昨日御鷹之白鷹以 上使御連枝方御三人方肥後守被遣之

(日次記に記事有)
昨日御鷹所へ相成行^行 麻布御使番 白銀拾枚 道陸江
被下之

昨日之御鷹之雁式^ツ 被下

上使松平健殿助 三枝橋津守
" 石川美伴守 紀重相 尾黃門
" 大久保出羽守 大久保出羽守
" 大久保豊前守 左馬頭殿 右馬頭殿
同^ツ 保科肥後守 大久保出羽守
同^ツ 保科式部大輔 松平式部大輔
天樹院御方 高田御方 中丸御方 千代姫御方 右奥より被遣之
一 雅楽頭采地掃鯉三差上之

十五日

御刀 松平内記

(時服四) 參勤
金馬代 同 彈正
銀馬代 同 酒井日向守
箱肴 在所掃 相良遠江守
同 稲葉丹後守
水野信濃守
伊達大膳大夫
安藤九郎左衛門
能勢治左衛門
安藤理兵衛
問宮藤太郎
小栗五左衛門
清水権之助
加藤伊織
小栗庄左衛門
小野吉兵衛
真野惣左衛門
加藤牛之助
大平角助
佐山角左衛門

時服三 樽代 初^ニ
同 三羽折 大坂御目付 九郎左衛門二男
同 三 安藤九郎左衛門
同 三羽折 能勢治左衛門
同 三 安藤理兵衛
同 三 問宮藤太郎
同 三 小栗五左衛門
同 三 清水権之助
同 三 加藤伊織
同 三 小栗庄左衛門
同 三 小野吉兵衛
同 三 真野惣左衛門
同 三 加藤牛之助
同 三 大平角助
同 三 佐山角左衛門

右^番一昨日麻布筋^江御狩^ニ被為 成^ニ付御鷹師殿中召之老
中列座被下之 成^ニ付御鷹師殿中召之老

御礼巻物薰物一包 若王子
大坂掃 病氣付延引 勝仙院
福山・掃參 柘植平右衛門
川野権右衛門 溝口源右衛門

御禮巻物薰物一包 若王子
大坂掃 病氣付延引 勝仙院
福山・掃參 柘植平右衛門
川野権右衛門 溝口源右衛門

御禮巻物薰物一包 若王子
大坂掃 病氣付延引 勝仙院
福山・掃參 柘植平右衛門
川野権右衛門 溝口源右衛門

御禮巻物薰物一包 若王子
大坂掃 病氣付延引 勝仙院
福山・掃參 柘植平右衛門
川野権右衛門 溝口源右衛門

御禮巻物薰物一包 若王子
大坂掃 病氣付延引 勝仙院
福山・掃參 柘植平右衛門
川野権右衛門 溝口源右衛門

御禮巻物薰物一包 若王子
大坂掃 病氣付延引 勝仙院
福山・掃參 柘植平右衛門
川野権右衛門 溝口源右衛門

卷数 大峯掃 幸手 不動院
御暇 時ふく式 高野宇侶方 清淨心院

奥 十六日 無事
二丸被為 成午刻

十七日

紅葉山 御名代 豊後守
日門へ 上使吉良上野介知恩院御門跡へ畠山下総守御菓子一種
ツ被遣之

十八日 御役替
御持節頭 火酒 近藤彦九郎
坪内半三郎 火酒 田中内匠
御鉄砲頭 近藤彦九郎 輔組与頭
御鉄砲頭 三宅弥二兵衛 輔組与頭
土屋兵部少輔組与頭 御小姓組本多止左守組
諏訪左門
御鉄砲頭 御目付 川窪与左衛門
初鹿野傳右衛門跡 御目付 寛 新兵衛

右之面々於 御前被為 召被 仰付
佐野吉兵衛
柴田三左衛門

右駿府薩[■]山御普請出来^ニ付被下之
御番入被 仰付御書院番百廿人御小姓組へ百式人大御番へ
九十八人御納戸へ式人御勘定方七人小十人組六人御細工方
二人右之通被 仰付之

右名前別紙有之 (注 晦日あじに名前一覽あり)
紀重相尾黃門水參議へ如例年御菓園之菓種被遣之
於 御前御鷹之雁一ツ 但馬守能登守 拝領之
御暇 金三枚 多田院 玄覺
若王寺 使僧
勝仙院

御番入被 仰付御書院番百廿人御小姓組へ百式人大御番へ
九十八人御納戸へ式人御勘定方七人小十人組六人御細工方
二人右之通被 仰付之

右名前別紙有之 (注 晦日あじに名前一覽あり)
紀重相尾黃門水參議へ如例年御菓園之菓種被遣之
於 御前御鷹之雁一ツ 但馬守能登守 拝領之
御暇 金三枚 多田院 玄覺
若王寺 使僧
勝仙院

御番入被 仰付御書院番百廿人御小姓組へ百式人大御番へ
九十八人御納戸へ式人御勘定方七人小十人組六人御細工方
二人右之通被 仰付之

御番入被 仰付御書院番百廿人御小姓組へ百式人大御番へ
九十八人御納戸へ式人御勘定方七人小十人組六人御細工方
二人右之通被 仰付之

西忠左衛門兩人銀座之年霜被 仰付旨

廿日

上野 御名代美濃守

右願通京都へ堂領五百石被下之 毘沙門堂御門跡

右為 上使雅樂頭被遣之是京都毘沙門堂退轉年久再興有

之度之由毘門累年之趣達 上聞之處為彼堂料五百石之

地被下之旨被 仰出但右再興之儀へ兎角之 御意無之

御刀 松平因幡守

毘沙門堂 出座 御礼今朝之御礼也

松平相模守家來證人參勤

參勤 御太刀目錄

御暇 時ふく式被下

主計證人

荒尾次郎作

荒尾志摩證人

福

廿一日

已刻西丸被為 成

御馬被召之大番馬上覽

廿二日

式日 大和守 出座

御役替

本多内膳

右荒井關所番被 仰付土屋忠次郎三宅半七郎相勤候得共

被為 召上兩組与力同心^江内膳一人被為付旨被 仰付之

保科肥後守所勞御尋 上使松平氏部少輔被遣之

御座之間 御前近被召出遠州荒井御關所御番徒跡々小

身之面々被差置候得共御大切之御場所^二被 思召候^三付

内膳義も常々律儀被為及 聞召依之彼地三宅半七

郎土屋忠次郎右面組之与力同心一緒^二被遊御預候在所

へも程近き趣手遣も宜敷科有之旨被思召以彼是被 仰付

候間御番可相勤旨御懇之上意を以被 仰付

家跡 ○一 織田五郎左衛門高家被仰付

廿三日

水宰相昨夕當地着^三付 上使大和守被遣之

廿四日

増上寺 御名代 美濃守

廿五日

時服五

金馬代

御臺様へ銀十枚^二一種一荷

參勤御礼

各銀馬代を以御礼

金馬代

銀馬代

金三枚

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

奥大和

參勤御礼

家來七人

水戸相公

長門守子

大久保加賀守

周防守子

酒井長吉

水野宮内

川口源兵衛

仙臺御目付

松田善右衛門

大久保午之助

神尾若狭守

川野權右衛門

三宅内藏介

蒔田八郎左衛門

紀伊宰相殿使者

玉川伊右衛門

中山備前守

松平志摩守

雜賀孫市

梶川弥三郎

藤田將監

德坂八郎右衛門

市川三左衛門

保科肥後守依病氣為 上使土屋但馬守

御目付被 仰付

御目付被 仰付

御目付被 仰付

御目付被 仰付

御目付被 仰付

御目付被 仰付

御目付被 仰付

御目付被 仰付

廿六日

尾張右兵衛殿所勞^二 拖唐之由^三 付^三 上使美濃守

松平出羽守所勞^三付 上使御使番桑山伊兵衛

御暇 時ふく式

廿七日

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

御暇

上使 板倉流後守

尾張右兵衛督殿

松浦能登守娘

九鬼長門守^江

森 内記娘

高力伊豫守^江

松浦肥前守娘

酒井備中守^江

黒田甲斐守娘

藤堂佐渡守^江

朽木伊豫守娘

木下左門大夫^江

水野出羽守娘

片桐長十郎^江

太田備中守娘

土井周防守^江

坂部三十郎娘

諏訪左衛門佐^江

井上相模守娘

金森飛騨守へ

金森立軒娘

六郷佐渡守へ

永井市正^江

植村右衛門佐娘

堀三右衛門^江

水野民部少婦

水野鍋之助^江

出羽守子

式部少子

式部少子

式部少子

式部少子

式部少子

式部少子

式部少子

式部少子

式部少子

松平豊前守娘
丹下子

本多孫十郎江

上根内記妹
日向守子

中根修理江

渡辺大隅守娘

酒井頼母江

水野主膳正娘
左門子

諏訪主殿江

諏訪若狭守娘

駒木根長右衛門江

大岡五郎右衛門娘

川窪七郎左衛門江

三浦志摩守娘

小出権之助江

新庄惣兵衛娘

松平伊右衛門江

本多弥八郎娘
佐治右衛門子

細井彦兵衛江

毛利右京妹

稻葉出羽守江

大橋長左衛門
建部傳右衛門

飯高七兵衛

右之通被 仰付之
只今迄御役儀入精進相勤
猶以向後三人之内一人ヲ
無滞様ニ可勤旨

廿八日

參勤御札

銀馬代 在所帰

箱肴 水口在番帰

銀馬代 参上

箱肴 甲府

丹羽式部少輔

奈須遠江守

板倉二郎右衛門

中島与五郎

渡辺因獄

尾張右兵衛督殿庖瘡ニ付彼亭へ隔日相詰病躰三度ッ注進
可仕旨様躰書付以可申上旨被 仰付候

兼松弥三郎

山村三郎兵衛

箱肴 病後 小堀備中守

東巻 後住御札 筑紫 善導寺

東本 一藏殿 仰付候御札 花園院

箱肴 從館林 参上 大久保荒之助

巻物十 御樽肴 松平右衛門佐使者 黒田三左衛門

右、黒田市正跡式被 仰付候御札

廿九日

御天守番

石原八左衛門

曾雌半左衛門

内山七兵衛

富士見番へ

富士見番へ

御天守番へ

御玉藏番

松平右衛門佐使者

黒田三左衛門

右被 仰付候

御暇 時ふく三羽折

大岡五郎右衛門知行所 公義御用地ニ成其上甚悪所付願之
通替被下旨

晦日

無別条之

仙臺御目付川口源兵衛松田善右衛門へ 御黒印下知状被下

十九日

御小姓組御書院大御番小十人組御納戸江御番入其外
今日 御勘定方御細工方子共上意之趣豊後守達之美濃守大和
守并但馬守能登守列座也

因幡弟

諏訪兵部

八兵衛兼子

石野弥十郎

与八郎二男

佐野七之助

七兵衛惣領

池田八郎兵衛

五左衛門三男

渡辺久藏

八左衛門子

松平八郎兵衛

理兵衛惣領

武藤庄兵衛

忠右衛門兼子

井上助之進

平左衛門惣領

戸田藤兵衛

八郎左衛門兼子

三輪藤四郎

作十郎子

戸塚甚左衛門

前五郎左衛門二男

本間加兵衛

民部三男

畠山左源太

長門守二男

瀧川式部

伊勢守子

高木善左衛門

安藤次郎右衛門

清右衛門惣領

稲垣三左衛門

庄左衛門惣領

水野八郎右衛門

五郎左衛門惣領

安藤左近

平右衛門二男

栢植七郎兵衛

筑後守三男

渡辺宇右衛門

十右衛門兼子

加々爪次郎右衛門

平右衛門惣領

三枝平三郎

内藏丞二男

岡野平九郎

兵部惣領

向井式部

越中守二男

小出権之助

志摩守惣領

板橋庄三郎

志摩守二男

板橋庄之助

野々山新八郎

新兵衛惣領

黒川外記

又六郎惣領

荒川又七郎

土屋藤助

大和守二男

前田帯刀

平左衛門三男

津田七右衛門

四郎兵衛兼子

竹生四郎兵衛

伊兵衛惣領

東條平助

荒之助惣領

大久保権十郎

長次郎惣領

本多惣兵衛

孫右衛門三男

別所孫兵衛

權兵衛兼子

河野善四郎

善十郎惣領

高木次郎八

左門子

小笠原伊兵衛

三郎右衛門兼子

永田主殿

越前守弟

本多傳左衛門

市正弟

松平主水

豊前守五男

松平市郎左衛門

新兵衛惣領

寛 新太郎

縫殿介惣領

土岐彦四郎

十左衛門惣領

荒木十郎右衛門

源兵衛惣領

川口長三郎

源兵衛惣領

天野長三郎

藤兵衛二男

西尾四郎兵衛

平十郎二男

中根長七郎

市右衛門兼子

真田傳四郎

丹下二男

本多長五郎

源七郎二男

弓氣多長七郎

丹波守惣領

青木新五兵衛

野々山新兵衛二男

小笠原七左衛門

上田兵八郎

若林孫右衛門

忠次郎次男

土屋藤助

右百式人御小姓組江
式部少辨
九鬼十郎右衛門
石河七兵衛
松平宇右衛門
堀 勘兵衛
本多百助
戸田五郎右衛門
大久保勘三郎
平岩半右衛門
戸田半平
井上内蔵丞
石川三左衛門
塚原庄左衛門
伊丹宗兵衛
次郎兵衛
松平甚十郎
成瀬瀧右衛門
秋浦左大夫
小笠原次郎三郎
小倉半弥
馬場三四郎
水野傳兵衛
神保惣五郎
小宮山市十郎
荒尾平次郎
櫻井庄藏
津金吉左衛門
揖斐次郎左衛門
佐々木五郎助
松平与十郎
三枝半七郎
赤井五郎右衛門
野間忠右衛門
紅林万九郎
飯河市右衛門
丹羽小左衛門
高城源三郎
保々弥三郎
伊奈十右衛門
朝比奈百助
渡辺八郎右衛門
菅沼八右衛門
溝口半助
諏訪右衛門
能勢三十郎
大久保孫兵衛
大久保治郎兵衛
牧野清兵衛
八郎兵衛
佐野内蔵助
稲葉七左衛門
日根野十右衛門
加藤平四郎
伏屋新助
松下十郎右衛門
安部圖書
松平仁右衛門
稻垣藤九郎
駒井權之助
坪内源太郎
成瀬藤右衛門
永見新助
神尾平三郎
間宮虎之助
坂井七十郎
本多左平次
長谷川新平
神尾十兵衛
酒井傳左衛門
浅井孫十郎
長谷川庄二郎
永井傳八郎
知久清五郎
中嶋与十郎
岡野孫大夫
松崎十右衛門
星合太郎左衛門
酒依六右衛門
横山仁兵衛
堀 三五郎
土岐二郎四郎
本多五郎左衛門
蜂屋七之助
大久保七郎左衛門
六兵衛
山田平右衛門
小幡市郎左衛門
中山勘太郎
小堀新右衛門
奥山甚兵衛
興津喜十郎
土岐兵部
小出教馬
寛 半四郎
城 市之丞
蜂屋八郎右衛門
大久保帶刀
三宅五郎八
三宅長兵衛
伴 荒之助
高林与兵衛
水野小平太
神原孫十郎
深津弥右衛門
下山長右衛門
布施三左衛門
大森五郎七
内藤伊織
座光寺清兵衛
小川半之助
山本平十郎
逸見四郎右衛門
水野藤太郎
平林十郎左衛門
本多十右衛門
瀧川三郎四郎
山田重左衛門
三枝權左衛門
弓氣多主馬
土屋惣兵衛

右書院番江百式拾人
佐次右衛門三男
細井忠七郎
遠山左門
矢部半之助
井越市兵衛
高山六左衛門
志村孫九郎
成瀬藤大夫
中山市十郎
和田傳次右衛門
牧 久太郎
稻生二郎八郎
秋原教馬
由比長兵衛
浅井權左衛門
黒澤二郎兵衛
西山八郎左衛門
山木弥五左衛門
浅井八郎兵衛
難波田八郎右衛門
由比吉兵衛
美濃部五右衛門
酒井十左衛門
武藤友之助
大井八十郎
森川六郎左衛門
恒岡金兵衛
万年傳三郎
長尾庄左衛門
深津弥大夫
小林十郎右衛門
加々美源左衛門
小林六郎右衛門
高井三右衛門

左衛門惣領
秋山人左衛門
万年平左衛門
能勢与十郎
進藤九郎右衛門
大嶋宇右衛門
嶋 宗左衛門
菅沼傳九郎
喜兵衛惣領
佐野彦九郎
与兵衛惣領
松下孫右衛門
永井主馬
秋原七十郎
河村頼母
土岐隼人
石野傳右衛門
山角孫四郎
新九郎惣領
小河傳之助
芝山虎之助
猪飼九右衛門
坪内藤右衛門三男
吉田八十郎
清水傳左衛門
平右衛門美子
九鬼十郎右衛門
石河七兵衛
宇右衛門子
松平宇右衛門
市之丞美子
堀 勘兵衛
百助美子
五郎右衛門惣領
戸田五郎右衛門
勘三郎惣領
金左衛門子
平岩半右衛門
半平美子
筑後弟
栄入三男
石川三左衛門
三左衛門美子
因幡子
伊丹宗兵衛
次郎兵衛美子
松平甚十郎
成瀬瀧右衛門
秋浦左大夫
小笠原次郎三郎
小倉半弥
馬場三四郎
水野傳兵衛
市右衛門惣領
神保惣五郎
長左衛門子
小宮山市十郎
平八郎惣領
庄五郎惣領
忠七郎美子
櫻井庄藏
庄五郎美子
津金吉左衛門
庄五郎惣領
佐々木五郎助
九郎右衛門惣領
八郎左衛門惣領
五平次惣領
赤井五郎右衛門
金左衛門美子
野間忠右衛門
甚左衛門二男
新右衛門美子
飯河市右衛門
平右衛門美子
丹羽小左衛門
清右衛門美子
兵九郎美子
保々弥三郎
五郎右衛門子
源六郎惣領
八郎右衛門美子
紀八郎二男
菅沼八右衛門
半左衛門子
因幡弟
諏訪右衛門
能勢三十郎
大久保孫兵衛
平四郎惣領
清兵衛子
牧野清兵衛
八郎兵衛美子
十右衛門惣領
半助二男
日根野十右衛門
彦右衛門二男
新助子
主馬子
内蔵丞子
將監三男
松平仁右衛門
右京惣領
半三郎惣領
半之丞惣領
吉右衛門美子
権七郎惣領
内膳子
造酒丞惣領
八郎兵衛二男
作右衛門惣領
長五郎美子
長左衛門惣領
勳兵衛惣領
八左衛門惣領
伊右衛門惣領
藤右衛門惣領
赤右衛門惣領
伊佐衛門一男
与五郎二男
權左衛門二男
權左衛門二男
松崎十右衛門
太郎兵衛惣領
星合太郎左衛門
權右衛門惣領
藤左衛門惣領
式部少輔二男
縫殿二男
將監美子
七兵衛二男
半右衛門一男
六兵衛子
三郎左衛門二男
勳右衛門惣領
新右衛門美子
次右衛門子
三十郎子
山城守二男
大隅守二男
助兵衛惣領
半左衛門惣領
半之丞惣領
四郎左衛門惣領
赤次兵衛三男
傳右衛門惣領
伴平惣領
与惣右衛門三男
赤兵衛子
越中守弟
長右衛門二男
安兵衛惣領
左衛門二男
平兵衛惣領
藤左衛門惣領
白平右衛門
木部久太郎
萩原左兵衛
石津十郎兵衛
水野彦九郎
朝比奈十兵衛
七右衛門二男
七右衛門一男
茂兵衛惣領
跡部惣左衛門
安左衛門惣領
市左衛門美子
服部十大夫
葛木又右衛門
弥平次
嶋 新助
鈴木平右衛門
八大夫惣領
又一郎惣領
又二郎惣領
又三郎惣領
又四郎惣領
又五郎惣領
又六郎惣領
又七郎惣領
又八郎惣領
又九郎惣領
又十郎惣領
又十一郎惣領
又十二郎惣領
又十三郎惣領
又十四郎惣領
又十五郎惣領
又十六郎惣領
又十七郎惣領
又十八郎惣領
又十九郎惣領
又二十郎惣領
又二十一郎惣領
又二十二郎惣領
又二十三郎惣領
又二十四郎惣領
又二十五郎惣領
又二十六郎惣領
又二十七郎惣領
又二十八郎惣領
又二十九郎惣領
又三十郎惣領
又三十一郎惣領
又三十二郎惣領
又三十三郎惣領
又三十四郎惣領
又三十五郎惣領
又三十六郎惣領
又三十七郎惣領
又三十八郎惣領
又三十九郎惣領
又四十郎惣領
又四十一郎惣領
又四十二郎惣領
又四十三郎惣領
又四十四郎惣領
又四十五郎惣領
又四十六郎惣領
又四十七郎惣領
又四十八郎惣領
又四十九郎惣領
又五十郎惣領
又五十一郎惣領
又五十二郎惣領
又五十三郎惣領
又五十四郎惣領
又五十五郎惣領
又五十六郎惣領
又五十七郎惣領
又五十八郎惣領
又五十九郎惣領
又六十郎惣領
又六十一郎惣領
又六十二郎惣領
又六十三郎惣領
又六十四郎惣領
又六十五郎惣領
又六十六郎惣領
又六十七郎惣領
又六十八郎惣領
又六十九郎惣領
又七十郎惣領
又七十一郎惣領
又七十二郎惣領
又七十三郎惣領
又七十四郎惣領
又七十五郎惣領
又七十六郎惣領
又七十七郎惣領
又七十八郎惣領
又七十九郎惣領
又八十郎惣領
又八十一郎惣領
又八十二郎惣領
又八十三郎惣領
又八十四郎惣領
又八十五郎惣領
又八十六郎惣領
又八十七郎惣領
又八十八郎惣領
又八十九郎惣領
又九十郎惣領
又九十一郎惣領
又九十二郎惣領
又九十三郎惣領
又九十四郎惣領
又九十五郎惣領
又九十六郎惣領
又九十七郎惣領
又九十八郎惣領
又九十九郎惣領
又一百郎惣領

三部右衛門惣領 跡部八郎右衛門
 惣兵衛兼子 門奈市十郎
 十三郎子 左五左衛門惣領
 門奈惣右衛門 松野猪之助
 六惣右衛門二男 万五郎二男
 佐野十兵衛 上田長四郎
 惣兵衛惣領 惣兵衛惣領
 安西五兵衛 森本助十郎
 太郎兵衛惣領 孫太郎兼子
 山田瀬兵衛 天野又右衛門
 權次郎惣領 五右衛門惣領
 塚原四郎左衛門 久保田勘兵衛
 新七郎兼子 四郎左衛門惣領
 本多勘右衛門 柴田傳右衛門
 宇右衛門惣領 所右衛門兼子
 西宮權左衛門 孫右衛門惣領
 五兵衛惣領 多田傳右衛門
 布施傳七郎 勳左衛門二男
 長兵衛惣領 小嶋市左衛門
 荒川長十郎 新見五郎助
 十右衛門兼子 十郎左衛門惣領
 三浦又左衛門 吉田源助
 小兵衛兼子 三郎右衛門惣領
 南條太郎兵衛 廣戸半九郎
 文右衛門惣領
 榎原平四郎 山角弥一郎
 五郎兵衛兼子 与惣右衛門二男
 深尾五郎八 半兵衛惣領
 与三右衛門三男 大橋宇右衛門
 大橋勘十郎 辻喜内
 庄次郎惣領
 溝口市大夫 藤川金十郎
 二郎右衛門惣領
 山本平十郎 山角内記
 權九郎惣領
 五右衛門兼子 本多權八郎
 源右衛門惣領
 永井彦七郎 小尾源五左衛門
 七兵衛兼子
 山上新五左衛門 福島長左衛門
 神保弥三郎 五左衛門惣領
 三田十郎右衛門 森川五左衛門
 三大夫兼子
 岡部治部右衛門 遠山金十郎
 又十郎惣領
 西尾二郎左衛門 津金清藏
 半左衛門惣領
 伊佐衛門兼子 石川源太左衛門
 新九郎惣領
 多賀三郎四郎 朝比奈新助
 庄大夫惣領
 八郎左衛門惣領 清水平次郎
 且記
 千村吉十郎 平右衛門惣領
 浅井五左衛門
 七兵衛兼子
 右大御番九拾八人 左右衛門子
 傳三郎子 原田三九郎
 百五十俵 中川三之丞 百俵三人扶持
 右兩人、父依為御納戸衆今度其役儀被 仰付
 右御納戸式人
 十左衛門惣領 松平午之助 五兵衛惣領 飯室長兵衛
 平左衛門惣領 太田半左衛門 十右衛門惣領 秋浦五郎兵衛
 七郎右衛門惣領 富士太郎兵衛 作右衛門惣領 竹尾市之丞
 右六人之父元依為小十人組但不殘今度小十人被 仰付

右小十人六人
 高馬子 佐野十右衛門 九郎兵衛子 秋田八郎左衛門
 市兵衛子 下嶋庄兵衛 太郎兵衛子 長谷川伊兵衛
 九郎右衛門子 竹村七郎右衛門 傳兵衛子 平岡吉左衛門
 勳左衛門子 設樂傳右衛門
 右七人、父之役儀連々心懸可見習旨被 仰出之
 右七人御勘定 助之進惣領
 四郎兵衛惣領 矢部四郎右衛門 矢部權之丞
 此兩人是又父之役常々心懸可見習之旨被 仰出之

柳當日次記
 寛文三 癸卯年
 十二月
 朔日
 如例月諸御礼相濟
 御刀 石川美作守
 進物 幸若小八郎 同次郎兵衛 同五郎右衛門
 五山十利へ被成下 上帖四十八通於 書式金地院相渡之
 為金地院内 御宮修復料當 御代十三年以前納置候五山
 利之宮物金地院へ被下之旨是又申渡
 夜入舞被 仰付依之被下 小袖三 小八郎 同式ッ 五郎右衛門
 (この部分日記にあり) 松浦肥後守
 六七日也
 右長崎御普請出来 付家来下奉行白銀時服被下之
 (こゝまで)
 二日
 無別條之
 宝樹院殿御修復^三付 御名代無之
 上使近江
 三日
 至痘瘡酒湯被懸候^二付為御祝儀 上使阿部豊後守以被遣之
 物
 小袖二拾
 一荷二種
 一荷一種
 銀七百枚
 二荷三種
 銀三百枚
 卷物十枚
 箱籠廿卷
 金八兩珠
 上使近江
 千代姫御方
 番頭
 池田帶刀
 德川右兵衛督
 尾張黃門
 是二条在番 罷上り候處氣分以之外 付息備中守御暇
 被下之帶刀死去也
 奥 御座間へ永井伊賀守被為召阿部新右衛門相果候^一付其跡組
 戸田七之助^正被 仰付
 四日
 無別條之
 紀伊亜相尾黃門水宰相登 城御對顔水戸殿願之通以松
 平右京可為猶子之旨被 仰出松平謙岐守へも被 仰聞之

稻葉美濃守事私領へ御暇 御鷹御鷹師共引具可相越旨
戸田七之助事御鷹師頭被 仰付之

五日

奥今度拝領地^江御暇被下候付^冊今日發足

三州信光明寺 御先祖依為 御菩提所向後常紫衣被

仰付候旨 光明寺^冊増上寺役者へ達之

御鷹之雁一^ツ被下

阿部伊豫守 松平甲斐守 永井右近大夫 井上河内守 青山大膳亮

酒井日向守 板倉隠岐守 内藤飛騨守 朽木伊豫守 松平備前守

堀田備中守 永井伊賀守 三浦志摩守 加々爪甲斐守

同 式 小笠原右近大夫

同 一 大久保加賀守

御暇 時ふく五 ^{眞紫}善導寺

同 式 大和 花園院

六日

無別条之

式日 出座 大和守

稻葉美濃守私領小樽村へ御暇後地・使者を以御鷹之雁式献

上之

御臺様へ鴨式献之

七日

銀十枚

御暇

幸若伊右衛門

時服二

同 二郎助

時服式^ツ

同 六郎太郎

松浦肥前守長崎町奉行屋敷普請手傳被 仰付造畢付^冊家

来へ被下物

(銀三十枚)

松浦半左衛門

(時ふく三羽折)

田中傳左衛門

(銀二十枚)

本澤一郎兵衛

(時ふく二羽折)

古川木工右衛門

(銀十枚)

原弥市兵衛

八日

無別条之

神原越中守御暇 時ふく式羽折被下之

奥美濃守在所備調式進上之

九日

(一日次記に記述有)

(小袖二)

(被下之)

御暇

駿府

神原越中守

(二日まで)

一 幸丸殿事清花列被 仰付候 御称号可為廣幅旨尾黃門家臣

成瀬大膳へ申渡

一 忍領鳥屋飼屋敷^冊鳥見屋敷彼城内有之地狭付^冊鴻巣へ

所替被 仰付鳥見^冊小栗忠七郎 鳥屋飼神谷助兵衛大草与

十郎へ於殿中申渡

右住宅引越^冊付引料被下之

一 女院御所御待種口三右衛門老衰^冊付為其代江戸廻り之鳥見

中村又左衛門被遣之

奥 戌之刻水野對馬守宅出火類焼有之

(一日次記に記述有)

阿部新右衛門

元組之御鷹師頭戸田七之助被仰付之

(二日まで)

十日

吹上御門御番被 仰付

石川若狭守

右土井能登守上ヶ屋敷被下之為作事料白銀百貫目被下之

昨夜戌刻紀伊大納言殿陪臣水野對馬守宅・出火本郷庄

三郎鶴殿藤助菅沼藤十郎同三五郎大久保助左衛門坂井

八郎兵衛油川源兵衛松平丹後守長屋松平越中守後室高

林弥三郎嶋田淡路守等及類火

一 昨日幸丸称号之為御礼尾黃門登 城謁老

一 杉浦市右衛門惣領市十郎伊奈半左衛門娘へ縁組願之通被

仰出

肥後守へ大久保出羽守以氣色御尋御菓子被下之

十一日

去^ル六日晚戌下刻・丑刻迄京都邊地震二条城中其外洛中

所々令破損由 禁裏院中為見分又彼地見分高木伊勢守子

八兵衛差添可被遣候御暇金二枚高木八兵衛^江被下之

去六日亥刻京都甚地震といへ共 禁裏院中御安全二條御城

中別条無之由注進雖然御天守櫓塀等之白土石垣込石少々

落之由

右三付 主上仙洞本院女院御機嫌御樣躰為御伺御使被 仰付之

如例年定火消

山口平兵衛 三

秋山十右衛門 二

水野半右衛門 四

永井十左衛門 五

花房外記 七

遠山半九郎 九

安藤内蔵介 八

蒔田権佐 一

田中内匠 十

堀田五郎左衛門 六

右常々無油断御役儀相勤 付為御褒美金十枚小袖三羽織

一被下之

九鬼長門守土方備中守殿中へ召之一昨夜火事之節別^冊

入精之趣入御聽 御機嫌被 思召之旨傳之

一 今日跡式被 仰付輩教輩別紙有之

十二日

式日 出座豊後守

一大坂・次飛脚去六日彼地令地震然共御城中町方破損無

之由

一 室賀下總守養子源七郎へ下總守先知千式百石被下旨

一 高野山衆徒中行人方と公事裁許有之別紙

十三日

今朝御煤拂^冊付酒井雅楽頭長袴着之奥方^ハ本多美作守勤之

十四日

高家其外布衣以上御役人

御番衆

御右筆

醫師衆

儒者

中興衆

寄合

御舟手

御普請方

右之面々屋敷無之輩所々^二面 被下候旨被 仰渡候

伊奈半左衛門娘

杵浦市十郎^江

右縁組被 仰付

進物番被 仰付

戸田久太郎 八木清十郎 近藤与三兵衛 井戸十右衛門 中川勘三郎

石川八十郎 西山六郎兵衛 井戸權九郎 曾我權之丞 瀧川与惣右衛門

能勢半十郎 中川傳左衛門 高林權左衛門 西尾七兵衛 村瀬伊左衛門

土屋甚助 能勢惣十郎 松平久右衛門 堀田源五郎 加藤彦右衛門

甲斐庄三郎右衛門

日門近々御登山^二付 醫師寿仙差添被 仰付之

一今朝御納戸衆田邊傳三郎儀小十人組山本三右衛門宅へ相越候処

意趣有之哉傳三郎^{（白紙には有之）}を令殺害佐右衛門へ令逐電^三

十五日

御刀 安部伊勢守

參勤之御礼

土井大炊頭

松平和守守

安藤對馬守

五味藤九郎

嶋田久太郎

万年弥三郎

古部文右衛門

井出藤右衛門

川合助左衛門

諸星惣左衛門

縮緬五卷

菖蒲皮廿枚

銀五十枚

小袖十

荒井御番

本多内膳

右為役料荒井為御番所領知行石附

高野山出家 御目見是今度学侶行方御仕置之下知状被 仰

出之^二付參府也

武束二卷

一束一卷

寶性院

無量壽院

前寶性院

釈迦文院

文殊院

二諸坊

進物

金馬代

右正僧正 勅許御礼

從京都到來之薬阿山へ御進獻之

大御番頭御書院番頭御小姓組番頭新御番頭小十人番頭

右組中之内於本庄屋敷被下面々地形悪敷付^二地築料金三

百石以下被下之旨

右領分銀山出来^二付支配可仕旨被 仰渡

甲州黒川之金堀共只今迄支配無之伊丹大隅守領地と近所

付^二向後^ハ大隅守可申付之旨

西本願寺使者 上原教馬

御暇時^{ふく}式

右来正月 台徳院様御遠忌之節為諷誦參向有之度由之

事不及其儀年頭之勅使參向之刻一同可有下向旨

十七日

紅葉山 御參詣 御刀 松平因幡守 御香 松平紀伊守 御先立 雅楽頭

尾黄門水宰相讃岐守 陪拜 日門御拝迎

御先 雅楽頭 豊後守 美濃守 大和守 御供 但馬守 能登守 下總守

十八日

御役替

相州三崎御番 松崎權左衛門跡 御小姓組松平謙殿頭組

山本六左衛門

三崎御番被 仰付

小濱氏部病氣大切^二付 弟佐右衛門御暇被下大坂へ相越

一知恩院方丈^{應空} 參府隱居之儀被 仰渡有之

一先頃福禪寺儀付^二先年從 権現縁被 仰出御條目之趣不

相考福禪寺事執持之段不屈事

一福禪寺儀付^二担那共大勢催之知恩院へ相詰企非據之節可

取贖之処左様之考無之段不屈之事

右両条重疊不屈被 思召其上尊空事近年為病者之旨被 聞

召及之間旁以隱居被 仰付之由於増上寺井上河内守加々爪

甲斐守命之趣傳之増上寺方丈列座知恩院御門跡へも河

内守甲斐守相越達之

一興津左衛門初彦十郎御書院番^三入

十九日

水戸松平右京殿左衛門督被 仰付之度之由願之通被 仰出

織田五郎左衛門高家列被 仰付之

廿日

辰下刻紅葉山御佛殿被為 成

十八日也 知恩院

右隱居被 仰付是^ハ今度福祥寺^ト意^三公事^二付何角取持

被致之処^二不屈^二被 思召付^二也

御刀 大久保出羽守 御香 安部伊勢守 御先立 酒井雅楽頭

尾黄門水宰相陪拜 松平讃岐守 御目見 日門御拝迎

豫參 雅楽頭 豊後守 美濃守 大和守 御供 但馬守 能登守 筑後守

下總守

御暇 時^{ふく}式

八幡 田中坊

關伽井坊使僧

表坊主御敷寄屋坊主屋敷不持分於本庄屋敷被下旨福阿

亦跡阿弥利齋へ申渡

廿一日

歲暮之御祝儀從諸大名使者を以時服被上ル

松平中務大輔淺草御藏火之番被 仰付

日門見沙門堂へ 上使島山下總守八代蜜柑一箱ッ被遣之

奥女院歲暮御祝儀献上之

廿二日

式日 出座 美濃守

(總百把 金馬代)

右養子被 仰付

小袖十 銀百枚

御太刀了戒正直代金五枚

御蓋様へ右衛門督殿・

銀三十枚

銀十枚

〃 五枚

〃 銀三枚ッ

御蓋様へ ちりめん廿枚^白 宰相殿・

水戸殿養子 德川左衛門督

あふみ

岡野

やしま

表使三人

増上寺傳通院登 城方丈・壺口切之御茶并御菓子献上之

廿五日

御刀 岡部志摩守

箱肴

(箱肴 御菓子一種ッ)

參勤之

御禮

參府

堀式部少輔

福原淡路

同 内記

大田原出雲

同 半六郎

荻野左近

名取半右衛門

同

御目見

病後

箱肴

駿府帰

大坂帰

病後

代官被 仰付

今度御赦免^并被

召出面々御切米被下也

千俵

四百俵ッ

三百俵

三百俵

三百俵

三百五十俵

六百俵

三百俵

二百俵ッ

百五十俵

〃

〃

〃

〃

濃州代官

甲州御城代

京都帰

松平出羽守

内藤帯刀

渡辺筑後守

西尾藤兵衛

本多下總守

伊達左門

岡田内膳

細井喜三郎

小野傳三郎

井上半十郎

山田権九郎

瀧川三九郎

加藤甚之助

久野左門

稻富喜三郎

松田源七郎

小長谷傳兵衛

加藤甚兵衛

林 平左衛門

糸原勘兵衛

右之通被 仰渡之

於 御座間尾黃門同右兵衛督殿 御對顔右兵衛督殿痾瘡後

初登 營也

織田五郎左衛門事五位侍從被 仰付

日門昨日御登山^三付 上使吉良上總介被遣之

御暇 (金三枚 時ふく式)

(金貳枚 時ふく式)

廿六日

御役御免

御留守居番

御騎方頭

天野六右衛門

岩手佐五右衛門

竹中越中守^事

林 春齋^事

右院号被下之弘文院 成

春齋事五経講談不残事畢之趣達 上聞忍岡家塾可称弘文院之旨被 仰出之

御加増被下候衆

三百俵ッ

御書院与頭

水野主膳

伊沢主水正

森川八郎右衛門

川窪与左衛門

土岐市右衛門

稻生七郎右衛門

小出甚左衛門

長田六左衛門

牛込忠左衛門

嶋田藤十郎

三宅内蔵介

水野小左衛門

御加増被下之

大御番 松平豊前守与頭

齋藤次郎右衛門

三枝八郎左衛門

御加増被下之

御加増被下之

御加増被下之

御加増被下之

御加増被下之

右者二百俵^{ツツ} 御加増被下之

百俵

〃

〃

〃

百俵

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

御小納戸

永井彦兵衛

御納戸与頭

布施孫左衛門

御腰物奉行

朝比奈藤左衛門

御右筆

飯高七兵衛

同

松浦半左衛門

土屋兵部少輔

森新兵衛

小十人組頭

中西源之丞

御膳奉行

小笠原金兵衛

御膳奉行

松平八郎左衛門

御臺所頭

右之外

御臺所頭

勘定方

御小人頭

御臺所衆

醫師

火之番等

醫師

原 金右衛門

醫師

内田玄勝

醫師

那須玄格

醫師

雨宮庄九郎

醫師

大久保次左衛門

醫師

原 金右衛門

醫師

高木六郎左衛門

御留守居天野六右衛門御宝藏番西山忠左衛門御賄頭

岩手佐五右衛門御役御免

竹中左京事父越中守御預之御代官所差上度之旨願之通

被 仰付

家^ツ ○一 小普請 大岡次右衛門大御番^二入

同 (日次給仕朱書きの)

一 小普請 大岡七郎左衛門御小姓組

廿七日

官位被 仰付

尾張黄門忠

德川右兵衛督

德川左衛門督

鎌倉光明寺

右 上使被 仰付之

右京都智恵院後住^二被 仰付之

来正月廿日

台徳院殿御遠忌之御法事^二付増上寺火之番被 仰付之

来正月廿日

右四人御法事中被 仰付之

来正月公家衆下向^二付御馳走人被 仰付之

勅使 中關門大納言

鳥井兵部大輔

法皇使 東關中納言

柴村二郎右衛門

本院 東坊中納言

新院役 花山院中納言

女院使 千種聖容

内藤右近大夫

如例年御褒美被下候輩

本庄築地奉行

徳山五兵衛

山崎四郎左衛門

柳生飛驒守

小袖三

金五枚

金式枚

御中間頭金三郎子

大岡金十郎

御小納戸

御納戸与頭

御腰物奉行

御右筆

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

松平彦兵衛

丸毛三郎左衛門

建部傳右衛門

大橋長右衛門

小嶋久左衛門

久保五兵衛

久保金左衛門

建部与兵衛

大橋左兵衛

秋浦伊右衛門

神尾小左衛門

渡邊七郎左衛門

御膳奉行六人

御臺所衆^江

柳生飛驒守如例衣綿衣三被下之

能勢山城守同断金五枚被下之

黒谷金戒光明寺後住

廿八日

今日諸大名出仕御目見無之於

御前如例年呉服拝領之

雅楽頭^江

豊後守

美濃守

大和守

土屋但馬守

土井能登守

松平民部大輔

森川下総守

板倉筑後守

内藤式部少輔

大森信濃守

大久保出羽守

石川美作守

大久保豊前守

本多土佐守

同

同

同

同

御右筆

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

御小納戸

御納戸与頭

御腰物奉行

御右筆

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

御小納戸

御納戸与頭

御腰物奉行

御右筆

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

御小納戸

御納戸与頭

御腰物奉行

御右筆

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

松平因幡守
御小納戸
御小姓
小袖式 被下

松平内記 岡部志摩守 松平紀伊守
大久保兵部少輔 安部伊勢守 神尾播磨守
岡部隱岐守 三枝對馬守 能勢撰津守

内藤上野介 宮崎七郎左衛門 遠山半左衛門
山岡十兵衛 大久保三十郎 大久保一郎右衛門
成瀬惣右衛門 万年佐左衛門 石原惣右衛門
牧 七左衛門 松平傳左衛門 松平次郎兵衛

飯塚半右衛門 江原九郎右衛門 坂本小左衛門
三宅市右衛門 大久保兵九郎 鶴殿十郎左衛門
本多金右衛門 永井彦兵衛

金三十兩
金二十兩
金五兩ツ
奥坊主衆

一 京黒谷金戒光明寺後住二被 仰付

廿七日也 東漸寺 林頂
官位 遠江守子

廿九日二被 仰付 伊達大膳大夫可為遠江守旨
侍從 伊達大膳大夫

廿九日二被 仰付 侍從 本多内記

廿九日二被 仰付 四品 松平石見守
松平石見守可為 隱岐守旨 四品 松平石見守
隱岐守改

右三人侍從被 仰付

廿九日二被 仰付 侍從 小笠原右近大夫

廿九日二被 仰付 四品 松平飛騨守
侍從 松平下總守

廿九日二被 仰付 四品 松平中務大輔

右四人四品二被 仰付之

諸大夫

右近大夫子 小笠原彈正
出雲守改 遠江守 伊東監物
伊勢守改 京極六丸
淡路守改 木下兵部
出羽守改 谷助十郎

森川二郎人 市正改
堀 弥太郎 出羽守
板倉二郎右衛門 越中守改
屋代五右衛門 山城守子
小笠原民部 兵部少 能登守
伊達市正 遠江守子

青山伊勢千代 播磨守子 和泉守
阿部善七郎 撰津守改 美作守
森川弥十郎 下總守子 出羽守子

米津勘兵衛 甲府殿城代 伊勢守
渡邊六左衛門 館林殿城代 豐前守改
大久保荒之助 越中守改

右之通被 仰付之

右法印被 仰付之

上地院

御書院組頭
御小姓組之与頭
御弓頭
御鉄炮頭
御使番

布衣被 仰付

右何及當年被 仰付之役人也

小姓与頭 書院組頭
川窪与左衛門 水野主膳
小姓組与頭 火消役
土岐市右衛門重久 田中内匠
先手頭 同 長谷川久三郎正旨
御使番 御使番 内藤新五郎 正芳
御使番 御使番 渡邊孫三郎
御使番 御使番 三宅内藏助
御使番 御使番 稻生七郎右衛門正旨
御使番 御使番 嶋田藤十郎
御使番 御使番 小出甚左衛門君明
御使番 御使番 西城御守居
御使番 御使番 永井左兵衛 正元
御使番 御使番 川口源左衛門 宗隆
御使番 御使番 本多作右衛門 宗隆
御使番 御使番 大岡次郎兵衛 若取半左衛門

家フ
○一 小普請遠山小左衛門御書院番被 仰付御加増百俵
〔日記記法未審カ〕
来年正月 台徳院様御遠忌之節増上寺勤番被 仰付

土井大炊頭 大久保加賀守 本多下總守 石川主殿頭 堀式部少輔
遠山信濃守
廿九日
歳暮之為御祝儀御一門方向茂登 城謁老中退去
御暇時ふく武 廣幡使者

松平下總守 小笠原右近大夫 本多内記 侍從被 仰付
伊達大膳大夫事為遠江守旨 松平石見守可為隱岐守旨被 仰出
日記書写之坊主九人へ金三兩ツ被下

寛文三年十二月十一日跡職被下

丹波江原守行

備前守藤原季子

松平越前守 五味藤九郎三恒

寛合 遠山弥七郎陸資

因幡守藤原三郎 七百日 次男

高九右衛門 武右衛門 仙石四郎守

主馬藤原守 角南左源太

大外山守 池田權太郎

榎十郎藤原守 佐々喜六郎

水野周防守 宮城次郎助

瀧川長守 仙石長一五郎

北条右近大將 松平豊前守

松平豊前守 松平豊前守

八左衛門 逸見四郎左衛門

高七右三右衛門 猪子牛之助

内侍 喜兵衛

伊賀守 大木七郎右衛門

松平外記 本多忠作守

孫兵衛 神田勘三郎

中田日向守 三沢友之助

松平日向守 小宮山伊左衛門

松平左近大將 山田守之助

戸田豊後守 服部八郎左衛門

傳兵衛 曾雄甚左衛門

阿部虎之助

大和助

秋山六左衛門

能勢午之助

伊賀守

平兵衛

多門弥兵衛

御前

秋山牛之丞

御前

右之分病之間

忍海

天野彦八郎

合 藤原守

北条右近大將 五味藤九郎三恒

御前 宇津野金左衛門

北条右近大將 淺井七郎左衛門

三枝 真田傳四郎

北条右近大將 溝口次郎大夫

内田勘藏

石谷兵四郎

水野甚五左衛門

小尾源右衛門

小倉孫太郎

大久保源吾左衛門

青木大助

山本平十郎

遠山八左衛門

鈴木一郎左衛門

三橋庄吉

平岡七之助

中根市五郎

小里助三郎

窪田平助

落合五右衛門

加藤伊織

大右衛門

吉田權七郎

松下安兵衛

高山弥右衛門

伊藤傳五郎

久永五左衛門

菅沼小十郎

天野吉十郎

片岡三十郎

成田甚右衛門

上林長太郎

上村一郎左衛門

右之分、躑躅之間

高崎三十郎

北川十右衛門

山脇助之丞

三田平半

星野虎之助

右之分書付渡り

新平子松平彌平家督

家督

新平子松平彌平家督

石川五郎右衛門

大川三郎兵衛

土田傳左衛門

戸田十三郎

村越茂兵衛

櫻井九兵衛

萩野小次郎

小嶋市左衛門

筑山又右衛門

權八郎

又五郎

中野伊織

八兵衛

星野虎之助

三田平半

高野山衆徒中 行人方連々訴訟之趣御穿鑿之上御仕置之

下知状兩通 本日於評定所双方へ申渡之豊後守美濃守大和守 寺社奉行列座

條々

一當檢校 如有來可被 着赤衣至前官 不可着之事

一從学侶方出補任狀之儀有永 宣旨之由雖申之證文無之間 向後堅停止之事

一行人方灌頂之儀於学侶坊可受之於他山不可受之学侶又無 難澁如有來可授之事

一行人方興山寺住持 衆議之一藤二藤於遂阿闍梨灌頂者可 着袷袈裟次衆議六十人於遂阿闍梨灌頂者可着金襴青甲裟 裝自是以下 遂阿闍梨灌頂之後着白七條袈裟之儀被免許 之事

一行人方衆議之一藤二藤 興院二十四人之僧侶着紋白袈裟 之儀有 永宣旨由雖申之無證文之間向後不可着事

寛文三年十二月十二日

高野山衆徒中 行人方連々訴訟之趣御穿鑿之上御仕置之

下知状兩通 本日於評定所双方へ申渡之豊後守美濃守大和守 寺社奉行列座

條々

一當檢校 如有來可被 着赤衣至前官 不可着之事

一從学侶方出補任狀之儀有永 宣旨之由雖申之證文無之間 向後堅停止之事

一行人方灌頂之儀於学侶坊可受之於他山不可受之学侶又無 難澁如有來可授之事

一行人方興山寺住持 衆議之一藤二藤於遂阿闍梨灌頂者可 着袷袈裟次衆議六十人於遂阿闍梨灌頂者可着金襴青甲裟 裝自是以下 遂阿闍梨灌頂之後着白七條袈裟之儀被免許 之事

一行人方衆議之一藤二藤 興院二十四人之僧侶着紋白袈裟 之儀有 永宣旨由雖申之無證文之間向後不可着事

一行人方法於院々谷々之堂社 宗徒之法事以後從來議至中禰 迄供養法理趣三昧 影供諸講諸會等之法事可動之旨被免 許之事

一学侶方諸伽藍法事執行之時行人方承仕之役附来于其堂社 之寺院可動之相隨学侶之差圍不可致疎慢事

一行人方說戒導師停止之事

一行人方於遂阿闍梨灌頂 亡者之院同被免許之事

一御社内陣之鑰天野神主請取之加封印為壇上預之間可預置 運上院事

一公儀之高札 有來場所可立之学侶方之札 青巖寺之前可 立之行人方之札 興山寺之前可立之事

一山林之儀外山之分 如前々五院各々薪等可伐採之内山之 儀 修造 無據子細有之節衆徒行人從双方奉行人出之可 伐之但山林相守之儀 自行人可動仕之事

一山中諸事諸式如先規可動之新儀非法之事業不可仕之事

一御當家 御代々 御黒印之趣弥堅可相守之事

右就今度学侶行人相訴被定之託堅可守此趣若於有違背之 輩 可被處敵科為後鑑下置双方者也

寛文三年十二月八日

大和守 在判

美濃守 同

豊後守 同

雅楽頭 同

高野山

宗徒中

高野山

行人中

右之通文言別紙

覚

一當職之檢校如先規ちりとりに可被乘之奥院橋供養之時堂

（日次には学侶方から別紙）

前迄令乘儀行人方雖訴之當日導師之節不可有異議事学

侶方大峯修行之儀人々可任其志但執心之学侶如有来以

行人可為先達事

一学道下之時学侶異躰之裝束向後無用之事

一北室院屋敷之外取之圍毀之屋敷並に可仕事

一御社山^江学侶自分之屋敷より出置之土石可取除之事

（日次には至が示るが示さない則ち異躰字か）

一檢校具進奥院邊堂初之時^并儀權頂之節行人役者^江莊殿

料可出之但恒例寺役之節不及出之事

一学侶方天野供僧六人之儀近年雖令減少向後可為 如先規員

数事

一青巖寺入用之薪其外材木等如 御黒印何之山にても可伐之

但不可賣買事

附奥院山^者可除之事

一於天野学侶修正相勸節行人方同音讀經不可仕事

一於御社^并諸伽藍学侶法事之節行人方承仕役者之外不可罷

出事

一於壇上奥院諸伽藍行人蓋集會之儀停止之事

一行人方朱傘停止之但可用墨傘事

（日次には墨傘）

一行人方衆議之一蕩於天野祭之場如有来可乘轅其外停止

之事

一興山寺前之路通に有之植木可堀除之事

一金堂穀屋^者為大塔近所之間可為明地事

一衆徒方取立召仕之行人^并用事相調来行人如前々無異議可

勤之事

一勸學院^江学侶出仕之節權諸院之鐘儀如先規之停止之事

一於壇上奥院邊堂之節衆徒行人道筋如先規可為格別事

一御社邊宮^并曼荼羅供有之節供物可備外陣事

一行人帽子之儀可用茶色但承仕之節可為無用事

一諸伽藍之儀^者勿論雖為谷々之小堂小社於入佛遷社^者行人

不可執行事

右之趣深有相違為後鑑下置双方者也

寛文三年十二月八日

奉行

高野山

宗徒中

高野山

行人中

同文言別紙